

2011年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
報告書



期日 2012年(平成24年)3月9日(金)～11日(日)

場所 滋賀県野洲市、湖南市、蒲生郡竜王町

主催 日本学生オリエンテーリング連盟

主管 2011年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門実行委員会

後援 財団法人 滋賀県文化振興事業団
(滋賀県希望が丘文化公園)

野洲市、野洲市教育委員会

蒲生郡竜王町、蒲生郡竜王町教育委員会

社団法人 日本オリエンテーリング協会

滋賀県オリエンテーリング協会

協賛 株式会社日本旅行

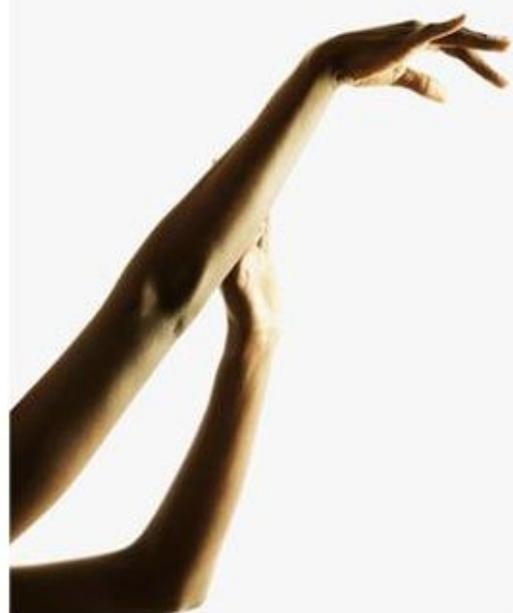




その先にある

「感動」を届ける

それが、日本旅行。



多摩教育旅行支店文化学園内旅行コーナー
TEL: 03-3299-2058 FAX: 03-3299-2137

担当 小林 博文 E-mail: hirofumi_kobayashi@nta.co.jp

インカレ打ち上げ・合宿・海外遠征などお気軽にご相談ください。

目次

ご挨拶	3
イベントアドバイザー報告	5
将来への提言	12
ミドル・ディスタンス競技部門 入賞者コメント	17
ミドル・ディスタンス競技部門 コース解説・講評	22
リレー競技部門 入賞校コメント	29
リレー競技部門 コース解説・講評	35
リレー競技部門におけるパターン振りミスについての報告	38
アンケート結果報告	40
全コントロール図、ディスクリプション一覧	45
選手権 Aクラス スタートリスト	47
大会役員一覧	48

謝辞

本報告書の作成に当たり、上林弘敏様(<http://www7.atpages.jp/orienphto/>)より写真の提供を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

ご挨拶



日本学生オリエンテーリング連盟
会長 河合 利幸

インカレリレー史上初の三連覇を成し遂げた東大男子、初優勝した金沢大女子の皆さん、おめでとうございます。男子ミドルは僅差の激戦、女子ミドルでは1年生での入賞、その他にもいろいろと新しい記録が生まれ、冷たい強い風が吹いた会場を熱く盛り上げてくれました。リレーMEでは、一部にコース印刷のミスがありました。奈良ロングに続いて私の地元関西で再び不成立という最悪の事態だけは避けることができ、本当に良かったと思います。

この1年半の間、ロング不成立とその再競技、そしてインカレ開会式当日の大震災と、厳しく難しい状況が続いてきました。さらに、新年度のインカレ開催が未定など、まだまだ綱渡りの状況が続きます。

そのような中で明るい話題は、ミドルエントリー数が2005年以来6年ぶりに600人台半ばを回復したことでしょう。一昨年の500人割れの原因の一つは関西学連の参加者数減でしたが、昨年、今年とV字回復で5年前を超える人数になりました。もちろん今回が地元開催だったからということもあるかもしれませんが、さらに、特筆すべきは東北の5大学です。震災があったにもかかわらず昨年より30人以上、一昨年から比べると50人もの増加です。他の地区でも軒並み増え、加盟員数も1000人に手が届きそうなところまで来ています。これは、皆さんが危機感を持って新勸に動んだからに他ならないと思います。震災を経て、人とのつながりを求める心理がプラスに働いたのかもしれませんが、今後も気を緩めることなく新しい仲間との継続的かつ着実な獲得に励んでいただければ幸

いです。とはいえ、無理をして急拡大を目指す必要はありません。

最近の表彰式、閉会式を見ていて思うことは、本当にインカレを楽しんでいるんだということ、礼儀正しさです。花束贈呈では羽目を外すこともままありますが、寒かろうが雨が降ろうがほぼ全員が式の最後まで残り、年寄りの話をきちんと聞き、実行委員に大学毎にお礼の挨拶に来る。当たり前のことを当たり前にできる。人数も大学数も多かった昔は少し違いました。今は規模が小さくなった分、連帯感が増しているような気がします。

最後になりましたが、多忙な日々の合間を縫って準備をいただいた実行委員会とその関係者の皆さん、ご苦労様でした。特に、このテレビの調査作図は困難を極めたと聞き、頭が下がります。関西にとっては使い度のある精度の高い地図ができ、今後のレベルアップにもつながることと思います。また、野洲市や竜王町をはじめ、地元関係者の皆様には様々な面でご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございます。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。



日本学生オリエンテーリング連盟
幹事長 鵜瀬 和秀

2011年度の春インカレは不成立の危機に立たされながらもなんとか無事に終えることができました。今回はツイッター公式アカウントや、オフィシャルレース(残念ながら中止にはなってしまいました)、表彰式のUSTREAMでの配信、といった新しい試みもなされ、これまで以上に盛り上がったインカレとなったのではないのでしょうか。

冒頭でも述べましたが、2010年度のロングの不成立、ミドルリレーの中止の危機と同様に、今回は不成立の危機に立たされました。実行委員会としては不成立と判断せざるを得ない問題だったそうですが、実行委員から不成立を宣言するのではなく、参加者の判断にゆだねるという案があり、今回は最終的には成立という結果に至りました。このことから、今まで表面化していなかった(単に私が知らなかったかもしれませんが)インカレ運営における課題が見えてくると思います。その一つとして、ミスが出るほどにインカレの運営には負担がかかるということです。原因としては運営者の不足などもあるでしょうが、今回はリレーの2走が短いことによってリレーのパターン降りが複雑化しているということが大きな原因の一つだと聞いています。現行の規約では必ずしも2走を短くする必要はないのですが、今回の場合は最近の慣習によってそうしなければならぬと考えられてしまったようです。リレーの2走が短くなったのは最近で、元はというと加盟員の減少によって、選手権を走ることができる選手を大学で3人そろえるのが難しくなっている、ということから生まれたものです。悲しいことに加盟員の為に工夫されたことが、運営者の負担となってしまった訳です。今回不成立かどうかの判断を下したのが学生自体であったように、あくまでインカレは学生主体です。しかし、運営の負担、さらには不成立の原因にまでなってしまったのは元も子もありません。難しい問題ではありますが、今後考えて行く必要があると思います。そして、このような議論を行える場として学連の幹事会・総会が存在します。先ほども挙げたようにインカレはあくまで学生主体です。運営の問題だから、なんていわないで加盟員全体で考えていってください。また、加盟員の減少からインカレが複雑化したといっても過言ではありません。そういう意味でもまずは新歓活動がんばってください。応援しています。

最後になり大変恐縮ですが、実行委員会の皆様、希望ヶ丘文化公園の関係者の皆様、そしてインカレに協力くださった全ての方々に、日本学連加盟員を代表し、厚く御礼申し上げます。同時に、この一年間を乗り越えるためにご協力いただいた全ての皆さまにも御礼を申し上げ、2011年度日本学連幹事長の最後のあいさつとさせていただきます。



2011 年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
実行委員長 西村徳真

今まで運営してきたどんな大会よりも、つらく、厳しく、そしてやりがいのある大会だった。この1年間の運営を振り返って改めてそう感じています。

この大会を開催しきれたこと、それにまずは安堵しています。大会が終わった後、片付けをしている運営者のもとに挨拶しに来てくれた人がたくさんいて、あるいは後夜祭会場でもたくさんの学生たちが私のもとに挨拶しに来てくれて、口々に「楽しかったです」という言葉を聞くことができたこと、それが非常に嬉しかったです。ありがとうございました。

一方で、本大会では、リレーの男子選手権クラスにおいて、パターン振りが誤っているという極めて重大な競技上のミスをしてしまいました。公平な競技が行われることを信じて鍛錬を積んでいる選手の皆さんに対し、非常に申し訳ないことをしてしまいました。詳細については、本報告書の中で詳しく述べさせていただきます。

学連内では「インカレの継続性」について長らく議論が行われてきておりましたが、運営者として携わらせていただいたことで、そのことに対する問題意識をより深く考えさせられることとなりました。上記のミスは完全に運営者の落ち度であり、釈明の余地のないものでありますが、その背景には、運営負荷・地図調査の負荷も原因の一つにあります。幸いにして、今年度のインカレは前年の参加者数から大幅増となり、学生オリエン界には希望の光が見えてきています。インカレが学生の目標であり続けるために、運営者の負荷軽減や次年度への引き継ぎ体制などの課題を克服していくことを願ってやみません。本報告書がその一助となりましたら、幸いです。

最後に、春先から1年弱にわたって地図調査をおこなって頂きました三上殿、タイなスケジュールの中地図を仕上げて頂きました山川殿、会場となる希望が丘文化公園において多大なるご協力を頂きました田附殿ならびに職員の方々、様々な助言をくださった理事の方々、最後までインカレの成功を目指し、一丸となって協力してくれた運営者のみんな、その他本インカレにご協力くださった全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

イベントアドバイザー報告

イベントアドバイザー 金谷 敏行

1. はじめに

あれだけ多大な時間と労力を費やした2011年度インカレ ミドル&リレーも、本原稿執筆時点ではや1ヶ月以上も前の出来事になろうとしている。それぞれの参加者にとって、今大会はどのように映り、その評価はどうだっただろうか？そして実行委員会のメンバーがやろうとしたことはどの程度参加者に伝わっただろうか？こうしたことを考えながら、イベントアドバイザーの立場から今大会を振り返ってみたい。なお、実行委員長による将来への提言と重複する内容も多分にあると思われるが、お互いに異なる立場からの感想・意見として捉えてもらえれば幸いである。

この報告書が、今回のインカレを振り返る一つの材料になれば、そしてこれからインカレを運営しようとする後輩たちの今後の先行きを、少しでも示せるものになればよいと願う。

2. 今大会を俯瞰して

まず、今大会を俯瞰してみると、人材・トレインと地図・会場という3つの重要な要素に非常に恵まれた大会であったと言える。まず1つ目は人材。中心メンバーには非常に豪華な面々が集まってくれた。関西で開催するのであればこのメンバーは加わって欲しい、と思える若手のほとんどを集められたことは非常に大きく、実行委員長の人徳と人事責任者の苦勞の賜物といえよう。近畿エリアだけでなく、愛知・岐阜エリアからも運営メンバーを集められたことも大きかった。個人的にも、中心メンバーは普段から気心の知れたメンバーばかりであったので、仕事は非常にやりやすかった。

2つ目はトレインと地図。ここ希望が丘は関西ではいわずと知れた良質の公園トレイン。幾度挑戦しても飽き足りない、屈指の難易度を誇る微地形エリアが広がる。度重なる調査を経て既に素晴らしい地図が提供されてきたわけだが、旧地図の中心に広がる未調査エリアを開拓できれば更に素晴らしいトレインに生まれ変わることは想像に難くなかった。今回、これを可能にしたのは今回のメインマッパー三上氏を始めとする、調査陣の尽力に他ならない。三上氏、山川氏、そして今大会後なんとプロマッパーとして活動し始める実行委員長西村という日本が誇る3人のマッパーによってこの見事な地図が提供されることとなった。今後も関西エリア、そして日本の代表的なトレインとして愛用され続けることだろう。

そして最後の、会場という要素も外せない。これまでもここ希望が丘が頻繁に利用されてきた背景としては、トレインの質の他に、会場が確保しやすいこと・そして交通の便がよいことという点が挙げられる。今回のメイン会場であった多目的広場は、応援・観戦体制の提供が難しいオリエンテーリングという競技の中にあって、パブリックコントロールやラスポへのアタック、レーンを走る選手の姿など、最大限の見せ方が可能なロケーションであろう。

そしてまた、この時期の滋賀県としては万々歳といえるほどの暖かな天候にも恵まれた(風はきつかったが)。こうした様々な好条件に恵まれて開催までこぎつけることができたことは、非常にありがたい幸運であった。

大会自体は、たくさんの遅れ・失敗・反省は見られたもの、実行委員会のメンバー全員のがんばりと各方面の方々の協力・尽力により、なんとか終えることができた。最近のインカレでは、地元渉外の問題による不成立や昨年の震災などイレギュラーな事態に直面してしまうことが多かっただけに、不成立にすることなく終えることができたことはまず喜ばしい。

しかしながら、「無事に」と言えるものでは決してなく、本当に薄氷を踏む思いでの競技成立であった。リレーの部 ME

にて、地図のコースパターン振りの不備を発生させてしまった。細かい経緯は、本報告書 P.37～「リレー競技部門におけるパターン振りミスについての報告」をご覧ください。結果的には不備はあったものの順位が覆るような、そして競技自体を不成立にさせるほどの不公平度合いではなかった、という裁定委員の判断で競技は成立となった。

この問題に関しては賛否・ご意見いろいろあると思う。しかしながら、今になって考えても、最終的には成立としてよかった。本当にそう思う。

3. 個別案件の評価・反省

次に、いくつかの個別案件についてひとつずつ簡単にコメントしていくことにする。

・地図

地図については前述の通り、調査担当者の尽力により、過去マップから使用可能エリアを大幅に拡大した素晴らしい地図を提供することができた。参加者にも、希望が丘の難トレインを十分に堪能してもらえたことと思う。しかしながら、予め十分予想されたことではあったが、やはり調査進捗の遅れは著しく、最終的に全ての競技エリアを十分に使用できるようになったのは、年も明けてかなりぎりぎりの時期であった。また、調査費用も当初の予想以上にかさんでしまった。もう少し、初期の段階から地図作成の進捗・予算などの面できちんとしたスケジューリングをしておかなければならなかった。

・コース

ミドル・リレーともに、難しいコースならいくらでも組めるというトレインの中で、優勝設定時間の精度を上げるためにいかに難易度と距離を適切なものに設定できるかに苦心した。また、地図作成の遅れがそのままコースセット・試走のスケジュールの遅れにつながり、直前の余裕が全く持てなかった。

結果としては、ミドルの優勝設定時間 40 分に対して、ME でウニングがおよそ 36 分、WE で 32 分。リレーでは ME 50/35/50 分に対し 45/36/50 分、WE 45/35/45 分に対し 51/49/59 分。リレーWE 以外では少々短めの結果となってしまった。これは、直前になって本格的に地図がリファインされてきたことで、試走の段階では旧マップを使用していた部分のロスタイムがかなり短縮されたこと、そしてまた当日の天気がベストに近かったことで非常に走りやすいコンディションにあったことが重なったものと予想される。リレーWE のみ逆に長めに外してしまった要因としては、難易度とアップの面から女子には少々厳しめのコースであったことを十分読みきれなかったことが主要因と考えられる。

また、ミドルとリレーの使用エリアの重複を避ける都合から、どうしてもリレー側に制約が多くかかってしまい、特に振り分けコントロールの設定に苦心した。1 枚の地図で会場も共通、というパターンでの開催が今後も主流となると思われるが、毎回同様の問題を抱えることとなるだろう。

・事前準備

最も問題視されていたのが前述の地図とコースの件。それ以外としては致命的ではなかったもののスケジュールの遅れやミスは散見された。その中で、要項 3(プログラム)の作成に際し、日本旅行様の広告を掲載し忘れるというミスも犯してしまった。また、一旦入稿後に致命的な誤植を発見し裏表紙を差し替えるというミスも起きている。これらはいずれもチェック体制の甘さによるものである。原稿のチェック体制・管理体制についてはもっときちんと議論すべきだった、ということは大きな反省点である。

また、エントリー受付に際し、非常に混乱が多く見られた。大会の部分参加に対する参加費のあり方、E-Card 番号など登録情報変更の頻発、そして、詳しくは改善点の項でもう一度詳しく触れようと思うが、エリート枠の再配分に関する選

手変更のスケジュール、この辺りの制度の甘さが混乱の一因であろう。今後十分議論の余地がある。

・当日運営

当日の問題点としてリレーME のコースパターン振りミスの件以外を振り返ってみると、リレー一般の部の計センの混乱が挙げられる。コースパターンエラーが続出し、ゴールレーンに処理しきれない選手が大量に溢れた。各選手に割り当てられたコースパターンが正しいものになっていなかったようだ。原因を一言で言うと、当日の問題というより事前準備データの不備である。コースパターン振りミスの件も含め、全般的にデータ確認の不備によるミスが非常に多かったことは反省としなければならない。ミドルの日の晩の資料配布の時間が大幅に遅れてしまったのも、準備不足に起因するものである。

演出に関しては、今回演出パートの頑張りもありかなり多彩な工夫が見られておりよかったのではないと思う。(ただし、リレーの日の速報掲示については計センの混乱から大幅な遅延が生じてしまったが。) 次節の新たな試みの部分でもう少し触れることにする。

他に良かったこととして特筆すべき点としては、併設大会初心者クラスの参加者を比較的たくさん集められたこと、テレビの性質上多かったケガ人の対応が非常にスムーズに行えたこと、大会終了後の備品片付けが非常に迅速であったこと、などを挙げておく。また、会場レイアウトを検討するに当たって考えた観戦者の流動予測どおりに人々が動き、そして陣取ってくれ、観戦が非常に盛り上がるものになったことは嬉しいものだった。

逆に予想できなかった点としては、大風だ。雪が降ってもおかしくない時期であるとは認識していたが、大風には全く考えも及ばなかった。大風でテントが飛ばされてけが人が発生する事故も全国で起きているだけに、テントや機材の固定対策の重要性は再認識する必要がある。

4. 新たな試み

さて、今回のインカレ運営を通じて出た様々なアイデアの中から、いくつかの新しい試みを実施することができた。ここではこれらを紹介しておきたい。

・運営面での試み(スカイプミーティング、学生へのアンケート実施)

まずは運営面での試みを取り上げる。ほぼ 1 年間、毎週日曜晩に中心メンバーによるスカイプミーティングを実施した。もちろん日々メールでのやり取りは行うが、何度も文章によるキャッチボールを続けるよりも関係者集めて話し合いをした方が早いでしょ、という考えで実施された。確かに、メールによるやり取りに比べ圧倒的に判断は早く意思決定はスムーズであった。もちろん、その分時間確保の負担は増えること、そしてまた直接会う必要性が減り、本当に顔をつき合わせてのコミュニケーションが逆に減ってしまったことといったマイナスポイントも考えられたが、頻度と用途を適切に設定すれば非常に有効なツールだったのではないかと思えた。

秋口に、学連を通じ各大学へのアンケートを実施した。実行委員会として、学生の意見を吸い上げてフィードバックできる項目については検討していこうという趣旨である。内容は、リレーの走順別距離 可変方式の是非・報告書希望者購入制・Twitterについて・・・など。こうしてオフィシャルな形で学生の意見を聞く機会というのはこれまでほとんどなかったのではないだろうか？ 実に色々な意見があり、非常に興味深かった。もちろん、取り入れることのできた意見もあればそうでない意見もたくさんあったのだが、実行委員会側からの一方的な視点ではなく、こうした双方向性の積み重ねがよりよいインカレを作り上げていく基礎になるだろう。

・広報・演出の手法(Twitter、USTREAM、速報ボード)

新しい広報手段もいくつか実施することができた。まずは Twitter の導入。担当者の負担と公開情報に関する公平性の問題が懸念されていたが、結果としてはますます回っていたのではないだろうか。ご覧になられた方々は分かったと思うが、インカレ周辺情報や過去データ・地元情報といった、興味を持ってもらえそうな情報をかなりの頻度で発信することができていた。

USTREAM 配信も、大掛かりな設備を用意することなく Wi-Fi 環境だけでカメラ映像の配信ができることは、大きな予算を割くことができないマイナースポーツの演出には非常に効果的だった。残念ながら設定のミスでミドルの中継はほとんどできなかったが、リレーの日の中継については、そこそこ面白い画像が提供できていたようだ。

速報ボードについては、毎年見やすさと効率の両立に苦心しているようだ。タイムラグなく掲示していくには動かしやすいボードで無ければならないが、その分風など外部の力に対して非常に弱い。遠くからでも見やすいようにサイズを追求すると、脚立を使って掲示するだけで手間と時間がかかる。今回は、マジックテープを用いて剥がしやすさと耐久性を確保し、スロープを使って高さの問題をクリアするという、非常に優れたものの速報ボードを提供できたものと思われる。

・オフィシャルレース

今回は企画しながらリレーコースパターンのミスという重大な問題の対応により中止せざるを得なかった。実はこれ、私自身過去からずっとインカレで実施したいと思っていたイベントだった。今回実行委員会からアイデアが出てきたことは非常に嬉しく思ったものである。

かつて私が JWOC に選手として参加したときにオフィシャルレースが実施されていた。選手によるレースが全て終わったあとの、半分お祭りとしての短いレース。面倒を見ていただいたオフィシャルを逆に選手が応援するというこのイベントとても面白みを覚えたものだった。残念ながら今回は日の目を見ることができなかった企画であるが、次年度以降再び実施されることを期待したい。

5. 検討・改善点

ここでは、今回の運営を通して浮かび上がってきた問題点の中で、特に今後の改善検討を期待したい項目について、いくつか触れてみたい。

・エリート枠再配分プロセスの再検討

実は例年の流れを正しく把握していなかったのだが、他学連にて返上されたエリート枠の再配分が発表されたのが2月頭というかなり遅い時期であった。そこからエントリー変更を受け付けるため、ミドル A エリート以外のスタート順抽選を既に終えた段階で変更申請が来て抽選をやり直す、というような事態になりかねない。現在中九四学連の加盟員がいないために枠の再配分が実施されるのは必至な状況である。他の仕事もいよいよ本格的に忙しくなるこの時期に余分な手間を増やすことにならないためにも、再配分の決定時期とエントリー変更プロセスの見直しは必須の改善事項と思われる。

・地図配布方法の検討

リレー競技において、自分の地図を正しく取る事は全競技者の責任である。しかしながら、どんなに注意を促しても地図置き場で他人の地図を持っていく選手はゼロではなく、取り間違いの混乱を修正する運営側の手間は小さくない。加えて、地図置き場作成にかかる事前準備の手間とごみの増大は無視できない程度となっている。現行の方式は、労力の割に競技に与える重要度は決して高いものにはなっていないのだ。

こうしたことから、そろそろ事前配布制も含めた方式の再検討を行う時期に来ているのではないかと考える。

・一般クラスリレーの大学間混成チームの扱いについて

一般クラスのリレーオーダーでエントリー後に欠席や選手権の部への補充などで端数が出た場合には、残りのメンバーは基本的にはスプリントに回ることになる。しかしながら、現行のルールでは、大学間混成チームが認められているため、端数が出た大学同士で前日に(つまりミドルの日に)混成チームを生成してエントリーすることが可能となってしまう。

この混成チームは新規チームとして登録されるため、人数不足で消滅するチームがある一方で新規チームが生成されることとなる。実際に今回は、混成チームが多かった為に予備地図が足らなくなり、前日晚に急遽追加で地図を刷るという作業が必要となってしまった。消滅チームの地図は丸々余ることとなるため、混乱と無駄を生んでいるのは明白だ。

母体となるチームがある場合のみ混成チームを認める、もしくは事前の登録以外は認めないなど、もう少しまい運用の仕方はありそうだ。できるだけ多くの選手にリレーを走ってもらいたいという方針を維持しつつ、運営の手間を増やさないルールの整備を期待する。

・大会期間中の携帯電話使用禁止の是非

今回、TwitterやUSTREAMといった、携帯端末があればその場で閲覧可能なツールによる情報発信を行った。しかしながら、大会参加学生は携帯電話の使用を禁止されているために閲覧することはできず、こうしたツールは基本、会場にいない非参加者に向けてのものとなっている。

せっかく色々なツールを準備しているのに、携帯の使用を禁止しているがために見られないのは残念、という見方もあるし、会場にいるのだから携帯電話の画面をじっと眺めることなどせずにリアルな応援で盛り上がってもらいたい、という意見も当然ある。

私個人の意見としては、選手権スタート地区に行く人員のみ通信手段の使用を禁止するなどすれば情報の遮断は十分可能であり、各種情報発信ツールを提供している以上、当日に参加者が閲覧することを禁止する必要性は無いのではないかと、このスタンスである。また、同じ会場にいる併設大会の参加者に対しては禁止していないわけなので、学生の目に触れないように徹底することも現実的には不可能だ。

これからもう少し議論が進んでゆけばよいと思う。

・責任者クラスの負担分担を

今回、およそ1年間インカレ運営に深く関わって思ったのは、責任者クラス、特に運営・競責の負担が非常に大きく、最後の1ヶ月など本業の仕事の時間などを削っていかなければとても任務を遂行しきれないのではないかと、ということだ。先輩たちにお世話になった分を後輩たちに返して行きたい、という気持ちを持ってくれる人々は決して少なくないのだが、ここまで仕事が集中するとやはり責任者クラスを引き受けるのは躊躇してしまう。かく言う私も、直前の時期は明らかに本業に支障が出ていた。

やはり、特定の個人の犠牲の元に大会が成り立っているわけにはいかない。もう少し仕事の分散を行い、例年実施していることはできる限りルーチン化して、少しでも負担を軽減する努力をしていかなければならないと痛切に感じた1年だった。

6. インカレ裁定に至る手続きについての提言

最後に、今回のような事前には予測し得ない問題が起こり、インカレの成立・不成立を問うような事態に直面してしまったときの動きについて考えてみたい。なお、本章を執筆するに当たっては、今回裁定委員を務めてくださった奥村理

也氏・玉祖秀人氏・花木睦子氏のご意見を大いに参考にさせていただいた。この場を借りて謝辞を示したい。

まずは今回の流れを振り返ってみると(先に本報告書 P.37～「リレー競技部門におけるパターン振りミスについての報告」を読んでおくことを読んでおくことをお勧めする)、問題が発覚した当初、実行委員会上層部の見解としては「コースパターン振りミス→すなわち競技不成立とするしかない」という流れだった。しかしながら、もう少し冷静に状況を分析し、また各方面の意見を伺うと、確かに公平性の確保としては問題が生じているが、程度としては軽微だと思われるものであり、誰も不成立を望んでいないのではないかと、それなら仔細を開示して学生たちに一定の判断を仰ぐ方がいいのではないかと、この考えが生まれてきた。こうして、各大学への状況の説明→提訴→裁定委員判断、という流れの末に成立することとなった。

ミスが起きてしまったこと自体は確かにあってはならないことであるが、事後処理としては最善に近い方向に持っていたのではないかと、と大会が終わった当初は思っていた。確かに、一定の評価はしうる動きではあったと思う。しかしながら、もう少し踏み込んでみると、最善の方法とはどのようなものだったのか？ 今後同様の予期しえぬ事態が生じたときには、どう対処していくべきなのだろうか？ そのためのガイドラインが必要なのではないだろうか。

今回の動きとしては、実行委員会側からの競技成立・不成立に対する見解は示していない。確かに、内々での持っていく行き方としては「成立させることを目標地点として」動いてはいたが、オフィシャルな形として実行委員会の見解を示して参加者の判断を仰いだものではない。いわば、判断は参加者側に投げた形だ。そして、その判断が提訴という形で裁定委員に投げられ、裁定委員の方々には非常に重い決断を強いることとなった。

こうなると、裁定委員は考える選択肢を洗い出し、データを収集・分析し、そして各方面への影響度の度合いを判断した上で裁定、その上で裁定文書を作成する必要がある。具体的には、別コントロールに行ってしまったことによるタイムロスがどの程度かということラップデータから予測し、それが実際に順位に影響を与えうるものであったかどうかを検討していただいた。その上での裁定である。

やはり、この前半部分、つまり、選択肢の提案と根拠データ提出は実行委員会の役割とするのがあるべき姿なのではないだろうか。経験豊富な裁定委員の方々は間違いの無い判断を下してくれることであろうが、それまで非常に多くの時間をかけ、そのインカレやトレイン・運営状況を一番よく把握しているのは実行委員会そのものである。「まず自分たちとしてはどうしたいのか？」を示すべきであろう。それが、よりスムーズな裁定への流れなのではないだろうか。また、全てを裁定委員に丸投げしてしまうのは、裁定委員に負担をかけすぎることもなりかねない。

競技の成立に疑義が生じた場合、まず始めに実行委員会がイベントアドバイザーの承認を得た上で一定の見解を公表すること。そこには考える他の選択肢と、その見解を導出するに至った根拠データを同時に示すこと。それに対して参加者に調査依頼を募り、必要があれば提訴、そして最終的には裁定委員による裁定という定められた手続きに則るべきである。

これを、今回の反省を踏まえた、危機管理状況下におけるインカレ裁定に至る手続きについての提言としたい。

7. さいごに

紆余曲折いろいろあったが、今となっては感慨深い1年だった。参加者として走ってくれた学生の皆さんにとっても、思い出深い、行ってよかったと思えるインカレであったなら嬉しいことこの上ない。そして、少しでもそう思えたならば、卒業したのちに、1回でもよいから今度は自分の後輩たちのためにインカレの舞台を提供するお手伝いをしてもらえたら幸いである。

今回よかったと思える部分は今後の実行委員会にも是非継承していつてもらいたいし、うまく行かなかった部分につい

ては、課題としてよりよい方向に持っていけるような材料として使っていただきたいと思う。とはいえ、過去のことを絶対的なものとはせずに、これからの人たちはこれからの価値観で、次なるインカレを作りあげてほしいものだ。

オリエンテーリングの歴史が、そしてインカレの歴史が今後も途切れることなく紡ぎ出されていくことを願って、筆を置く。

将来への提言

実行委員長 西村 徳真

1.はじめに

本稿では本大会を準備、実施していく中で得た所感をまとめ、実施規則 12 条に則り将来への提言とさせていただきます。インカレのあり方について考える一助となれば幸いです。

2.今年度の新たな取り組み

本インカレでは、様々な新しい取り組みを採用しています。その主なものを列挙し、それらの将来性についてここでは論じたいと思います。

2.1. 最新の IT 技術の活用

•Twitter による事前広報

Twitter 公式アカウントを設置し、福西を中心として様々な情報を 1 年間に渡って定期的に発信していました。その結果、大会に対する期待感を醸成するのに一定の効果があったものと考えており、今後も有効な施策となるものと思われれます。

•U-STREAM による実況中継

iPod などのカメラ付情報端末を設置することにより、全世界に対するリアルタイム配信を試験的行いました。ミドルの日については機器の設定ミスにより中断してしまうトラブルがあったものの、リレーの日は無事成功することができました。事前に Twitter や orienteer-ML 等で告知していた甲斐もあり、多くの人が訪れてくれたようです。会場に訪れることが出来ない OB・OG の方々にも会場の様子をお伝えすることが出来れば、参加する学生にとっても大きなモチベーションになることが期待できます。

•Skype による運営者ミーティング

運営者間のコミュニケーションにおいて、最良の方法は顔を突き合わせて話すことではありますが、それに代替する手段として、Skype を用いた音声チャットを毎週日曜日の夜 21:00 から行いました。直接会うよりも時間の負担が少ないため、頻繁に行えることが大きなメリットです。運営者が遠隔地同士となるインカレ運営においては非常に有用なツールとなり得ます

2.2. 新たなマッパーの育成

•三上雅克氏をメインマッパーに

山川さんのご尽力のおかげで、インカレの地図の精度が向上し、毎年安定した品質の地図が供給される状態となりました。しかしながら、その地図作製を山川さんに依存する構造が続いており、かといって以前のように運営者がボランティアで地図調査できるかという、参加者の要求水準からも、運営者の技量と時間の観点からも、非常に厳しいと言わざるを得ません。本インカレにおいては、山川さんへの依存構造の脱却と次世代のマッパー育成の観点から、三上雅克プロに地図調査を依頼いたしました。不慣れで非常に難解なトレインに大変な苦勞を強いてしまいましたが、かといって三上殿というマッパーがいなければ、決して本大会の地図は完成しませんでした。地図の遅れは、試走回数の増大などの形で会計や運営者の負担といった形で影響が出てきます。本大会

でも、地図の遅れからくる地図印刷の遅れ、その結果としてのチェック作業の混乱の結果、リレーのパターン振りのミスが起こってしまったとも言えます。私事で恐縮ながら、西村徳真もこの春よりプロとなるため、以前と比べて大きく状況は変わりますが、それでも地図の供給体制については、今後もしっかりとケアしていく必要があると感じます。

2.3. 演出改革

・マジックテープの速報ボード

長年人海戦術で行っている速報ボードに今年は工夫をこらし、マジックテープ形式とし、速報性の向上を目指しました。計センシステムトラブルや強風に対する脆弱性などのトラブルもあったものの、ほぼ狙った効果が得られたのではないかと考えております。余談ですが、その速報ボードは普通の段ボールではなく、プラスチックダンボールを採用しました。私が現役の頃、記念にもらったものが段ボールの速報ボードで、雨に濡れてヨレヨレになってしまってちょっと残念な思いをしたことが発端です。プラスチックダンボールは加工性も良く、値段もそこまで高くないので、こちらの方が断然お勧めです。

・式典の短縮化

例年スケジュールを押し原因となっていた表彰式を賞状の読み上げをなくすなどして本年度は大幅に短縮しました。インタビューが物足りないものとなった感は否めませんが、スピーディーな進行を実現できたと考えています。

2.4. モデルイベントトレインの早期開放

本年度のトレインは非常に特殊であり、経験したことがあるかないかの差が大きく出てしまう恐れがあったため、西ゲート付近を早期に開放して、トレーニングトレインといたしました。近隣の類似トレインが十分に開拓されていないエリアでインカレを開催する際は、公平性維持のための有効な手段と考えています。

2.5. 参加費の引き下げ

参加費を 1000 円引き下げ、8500 円としました。これは、学生の「インカレは高い」という不満解消が目的です。

結果、非常に難解なトレインであったことから地図調査費が膨らみ、その結果、総額で 500 万円ほどかかってしまったにもかかわらず、大会の収支をほぼトントンで終えることが出来ました。開催地近隣の運営者が多く、交通費が安く済んだことや、交通の便が良いことから宿泊を伴う準備を少なく出来たこと、各パートで経費削減の努力をしていただいたこと、報告書を希望者のみへの配布としたこと、そしてなにより参加者が大幅に増加したことが原因に挙げられます。

インカレ運営は、遠隔地で行われることや、地図調査に多額の費用をかけていること、そして運営者の数が多いことから、経費がかさみがちとなりますが、参加費を 1000 円下げて地図調査費が 500 万かかってなおトントンで終えることができたことは、今後の予算設計においてよい一石を投じることが出来たのではないかと考えています。

3. 運営負荷を抑えた上で、魅力的な大会を継続するために

春インカレの運営をゼロから携わらせて頂く中で、運営負荷の大きさを非常に実感させられました。インカレというイベントが真に素晴らしいイベントであるためには、参加者の学生、併設参加者だけでなく、運営者も満足できるものでなければなりません。健全なイベントのためには決して犠牲者を出してはいけません。もちろん、私を含め、運営者の誰もが犠牲になったという風には考えていませんが、少なくとも、インカレ運営のために各運営者の本業に影響が出るような状態は健全ではありません。

かといって、それは単に運営負荷を下げれば良いのではなく、インカレがインカレとしての魅力をきちんと保持し続ける必要があります。運営者の都合ではなく、参加者の満足が第一義に来るべきであり、1年間、あるいはその学生生活を賭けるに値するイベントであるためにどうしていけば良いのか、という観点を絶対に忘れてはいけません。

前置きが長くなりましたが、本インカレの中で運営負荷を増大させた要因と、その対策を考察していきたいと思いません。

3.1.2 走を短縮する現行体制の是非

選手権リレーにおいては、本インカレを含め、3年連続で2走を短縮する形式がとられています。しかし、私も運営をする中で気が付いたのですが、このような距離に差をつける変則的な方法を取ると、パターン振りの数が増大し、その結果地図のチェック工数が非常に大きくなってしまいます。詳細は割愛しますが、オーソドックスな3人リレーでは3×3の9パターンで十分な公平性を保つことが出来るのにもかかわらず、2走短縮の変則ルールを用いることで3×3×3の27パターンが必要になります(実際は、一部の組み合わせを除外しています)。特に地図のチェックは様々な準備が差し迫った大会直前期に行われるため、運営負荷に直接響いてしまいます。

2走の短縮化は、選手権クラスにおける完走率の向上等を目的に導入された施策ではありますが、走順の駆け引きの面白さを減退させてしまっているという指摘もあり、またそもそも完走率が低いことに対して、ルールを易しくすることで解決しようとするのが本当にインカレにとって良いことなのかという疑問もあります。

2走の距離だけでなく、各走区における距離配分の設定方法は実行委員会に一任されているため、来年度以降の実行委員会においては、上記事項も考えあわせた上でのコース設計をしていただければ幸いです。

3.2. リレー一般クラスのオーダーに関するルールの整備

全てのクラスのオーダーは、ミドルの日に夕方に提出していただくことになっていますが、今年はその提出していたオーダー表をもとに、急きょ地図を追加印刷し、シーリングする手間が加わりました。事前に数を確認し、必要数をあらかじめ準備していたにもかかわらずです。

その原因は、一般クラスの大学間混成チームの形成にありました。各大学の人数に端数が出た時に、それぞれの大学のチームを解体し、その代わりに大学間混成チームを新たに結成するというチーム組みを本大会にて認めていました。しかし、そのようにして新たに結成されたチームが膨大になってしまったため、せっかく印刷した地図が不要となる一方で、混成チーム用の地図が新たに必要になるという事態になってしまったのです。

運営者としては、上記のような事態を想定した地図の発注を行っていなかったことが大きな反省点です。しかしながら、そもそも大学対抗の性質を持つインカレにおいて、大学間混成チームを無秩序に認めること自体が望ましいことではないとも考えられ、大学間混成の可能性を考慮した上での地図の準備をしていると、上記のように経費も手間も余計に掛かってしまいます。現在は、選手権クラスでさえ大学間混成を認める方向に進んでいますが、上記のことを勘案したうえでのルール作りとその認識合わせを進めて頂きたいと思えます。

3.3. 地図配布方法の再検討

リレーの日に、地図の取り違えが起きました。それ自体はそう珍しいことではなく、600人以上の参加者が居れば1～2人はそのような誤りを犯してしまう人が居てもおかしくないのですが、今回は運営者側でその対応を間違っしまい、ただでさえトラブルのさなかにあった計センの負荷を増やしてしまう事態となりました。

そうでなくても地図置場の作成には膨大な工数を要しており、取り違え対応のための人員が地図置場に必要にもなります。2010年度のクラブ7人リレーにおいて、ビニールに密封した地図を事前配布しておき、スタート時にその封を切ってスタートするという手法が導入されました。不正を防ぎながら運営負荷を下げるための新たな方法です。インカレにお

いても同様の手法を採用することは検討しても良いかもしれません。

3.4. 日本旅行様との契約について

本年度も例年と同じように日本旅行様にお世話になりました。日本旅行様の対応については、値段が高い、宿の品質が一定しないなどの不満が多いのが現状ですが、運営者の立場で関わらせて頂いたとき、日本旅行様には非常に助けられました。

日本旅行様は日本学連の OB である小林様が窓口となって非常に長いお付き合いです。その結果、宿泊輸送のノウハウは実行委員会ではなく、日本旅行様の方にあるといってもよいくらいです。実際、いろいろとご迷惑をおかけしてもなんとか帳尻を合わせて頂きましたし、複雑なバスダイヤを組んで頂くのをはじめとして、インカレに必要な事項をよく理解していただいていることが大変助かりました。宿泊輸送マニュアルも実は小林様の著作です。

現在京王観光様からも営業に来て頂いているようですので、今後相見積をして頂く等の対応はぜひとも進めて頂きたいと思いますが、日本旅行様には長年の経験とノウハウがあり、それが運営上非常に役に立っているということも勘案して頂きたいと思います。また、それでも値段に対する不満が根強いのであれば、インカレのサービスとしての宿泊輸送をなくしてしまい、宿舎と移動手段はすべて参加者側で用意するという方法も検討の余地はあります。駐車場が十分に確保できる会場であれば、それも有力な選択肢の一つです。

3.5. 資料配布のあり方について

本年度はミドルの日の夜の資料配布が非常に遅い時間となってしまい、大変なご迷惑をおかけしました。これは必要な作業の洗い出しが不十分で資料準備のための初動が遅れたためであり、完全に運営者の落ち度であります。

しかしながら、この資料配布も、今や必要性が薄れてきているのではないかと考えます。学生の多くはスマートフォンを所持し、インターネットへ接続することが格段に容易になりました。当日のラップは Lap Center 等の Web サイトに掲載することが可能ですし、リレーのオーダー表も Web ページにアップされれば即座に見ることが出来ます。大学の数だけ資料を印刷し、それを各宿舎に回って配布して回るのも非常に手間のかかる作業ですので、来年度以降の実行委員会においては、廃止も含めて検討の余地があると考えます。

3.6. エントリー時の混乱(選手権の枠、My E-card、変更時の対応)

今回、運営者内部において、エントリーデータの扱いで様々な混乱がありました。その原因を下記に挙げます。

・ミドル選手権の枠再配分による、エントリー変更

ミドル選手権の枠は事前に発表され、それをもとにミドルセレが行われるものと思われませんが、最近の中九四学連の加盟員が居ないことから、さらに再配分がなされるようになりました。しかもその再配分結果が発表されたのが遅く、要項 3 の入稿直前に選手権 A へのエントリー変更依頼が入り、入稿前の大推敲大会の忙しさに拍車をかけてしまいました。そもそも、ミドルセレが終わってから選手権の数に変更されるようでは、エリートを目指す学生のモチベーションに悪影響を及ぼすことが考えられます。また要項 3 直前のデータ変更はマスタとなる参加者データの存在があやふやになってしまい、運営負荷と間違いの可能性を助長してしまいます。現在の学連の規則によると、どうしても発表が現行のタイミングとなってしまいうようですが、選手権の枠数に関してはエントリー締切までに確定していただく方が様々な面で都合がよいため、そのためにも規則の改正まで含めた検討を要望いたします。

・大量の My E-card の番号変更依頼

2009年度の足柄インカレから、My E-cardの使用が認められるようになりました。これは参加費の値上げと交換条件で認められた施策のようですが、その代わりにE-card番号の変更に手間がかかるようになってしまいました。My E-cardは電池切れや故障で番号変更が必要になることが多いこと、あるいは当日持つてくるのを忘れるといった形で急ぎよの変更が非常に多くなります。とはいえ、最近急速にMy E-cardの利用率が上がっていることもあり、日本国内にあるE-cardを総動員することもできるかどうか分かりません。この点は、参加者の皆さんにもご協力いただき、極力E-cardに関する変更をなくすよう、エントリー時には十分注意していただくようお願いするばかりです。

・その他エントリーデータ変更時の対応のまずさ

以上のようなエントリーの混乱を助長したのは、運営者内での参加者データの管理のまずさにあります。その一つには、変更した内容を逐一反映させようとして、大量の連絡メールが交わされたことにありました。締切後の変更は直前期に一括して反映させるなどの対応が必要でしょう。

3.8. 引き継ぎの組織化

ここまで様々なことを書いてきましたが、最後に一番大事なことを書きます。前年から翌年への引き継ぎです。いくらこうすればよかったああすればよかったと議論したところで、次年度に引き継がれなければ何の意味もありません。また、インカレ運営においては年ごとに地域がガラッと変わってしまうことが多く、十分な引き継ぎが難しい状況にあります。事実、今年も昨年からの引き継ぎは十分とは言えませんでした。運営者も前年から学ぶ姿勢、来年へ引き継ぐ姿勢を持ち、行動することが必要ですが、こればかりは運営者任せではなく、学連として責任を持って考えて行かなければならないことです。インカレは学連の主催行事です。実行委員会への丸投げでは学連の存在価値がありません。ぜひとも今後組織的に引き継ぎが出来るように方策を考えて頂きたいと思います。

ミドル・ディスタンス競技部門 入賞者コメント

男子選手権クラス

優勝 一橋大学2年 細淵 晃平

自分のインカレに対する特別な気持ちが生まれたのは、去年のインカレでの先輩方の熱い走りや涙を見て感動したときからでした。また、その時のインカレミドルで自分は B エリートを走ったのですが、レース中はかなりいい感触で走っていたのに最後の最後に大きなミスをしてしまい悔しい思いをしました。あの大きな舞台で感動を噛みしめたい、また雪辱を晴らしたいという思いは強く、そのために一年間頑張ってきました。

OLK での一年間の活動の中で色々な方から刺激や指導・サポートを受け、ここまで成長することができました。2011年のうちは全国の同期の成長を見て、高校からオリエンテーリングに取り組んできた自分はみんなと同じようにこれから伸びるのだろうかと思い、少し限界を感じていました。でも今年に入って色々な方と話す中で、自分にはまだまだ試していないこと、努力ができていないことがたくさんあると気付きました。それからは常に成長するために自分に合った山の走り方を追い求めてきました。そのおかげで大会での結果も少しずつ良くなっていき、これでいいのだと確信を持ちながらインカレに臨むことができたと思います。その点ではインカレに向けた準備は自分なりにできていたつもりだったので、落ち着いて走り出すことができました。

レース中、序盤は希望ヶ丘の地図表現と自分の実際に見たときの感覚を合わせるため、慎重に走り始めました。やはり希望ヶ丘は他にはない特殊なトレインということもあり、レース中は常に不安を感じながらレースをしていました。でも、自分の思っていた通りの地形が出てくる度にだんだんと走るリズムをつかめてきました。自分の得意なレッグで攻めて、慎重にならなければならないと感じたときはスピードを落としてゆっくり走ることができていたと思います。ゴール前の最後のループに入る前のヴィジュアルでは多くの方々に応援してもらい、嬉しさとともに、そろそろレースが終わってしまうのだという寂しさを感じました。でも走りきってゴールをして E カードのチェックが終わったあとには、ようやくインカレの考え抜かれたコースを完走できたという安心感だけがあり、いままで優勝争いをしてきたとは全く知らなかった自分は、実況の方に一位の記録を更新したと言われてとても驚きました。

オリエンテーリングという競技を自分なりに楽しむこと、インカレを全力で楽しむことだけを意識して走れた結果だったと思います。これまで様々な刺激をくれた方々、常に気にかけてくれてサポートして下さった方々、そしてインカレ運営に尽力してくださった方々には感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

準優勝 東京大学3年 結城 克哉

ロングで優勝した時から、「個人3冠」は頭の隅にありました。あくまで自分の目標は「リレー優勝」だったので、意識はしていたもののミドルの位置付けは「リレーの下見」でした。また、シード選手紹介で痛い思いをしたのも精神的に大きかったと思います。あの心の痛みに比べればレース前の緊張など取るに足らず、レース中に思わずスピードを出したくなってしまう場所でも我慢することができました。終わってみれば1位と12秒差の2位だったので、中盤で集中力を切らしてしまったことが今でも心残りではあります。あくまでこれが自分の実力だとも思うので、OLK の後輩であり、優勝した細淵には素直におめでとうと言えます。そして、2011年度で、持ったことのない杯がミドルの杯だけになったので、来年こそは東北大の入江さん以来の個人3冠を狙います。最後になってしまいました。共に1年間を過ごしてきたOLKの仲間と、応援して下さったOB・OGの方々に感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

第3位 東北大学2年 平野 弘幸

入賞はとてうれしかったです。しかし同時に意外でした。松本でのインカレロングで同期の関淳が3位になり、私も来

年のロングは入賞したいなど考えつつも、ロングまではまだ1年あるからじっくりやっつけていこうと思っていました。また、ミドルまでは色々やることもあり、準備不足は否めない状況でした。個人的な目標としては、来年度の北東の枠さえ取ればよいと思っていました。だからこそ、レースでは出来るだけ丁寧に走ろうと考え、ミスを抑えるよう努めました。いつもは結果を意識してしまうと走っていて楽しくないのですが、そんな気楽な状態だったので、今回のレースは心底楽しめました。希望が丘を楽しみつくしたと言っても過言ではありません。

そんな最高に楽しい舞台を用意してくださった実行委員会の皆様、サポートしてくださったオフィシャルの皆様、応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。

これからも楽しく元気にオリエンテーリングに取り組み、次のロングではもっと上を目指していきたいと思います。

第4位 京都大学4年 伴 毅

最後のインカレミドルが、関西の難関テレインであり、個人的な思い入れもある希望ヶ丘で行われることとなり、さらに優勝設定から低速レースで展開されることを知って、レース前私のテンションは上がっていました。また、経験者として入ったプライドもあり、大学の4年間をインカレ個人入賞ゼロで終えるのは絶対にいやだ、という気持ちもありました。

レースはミスの少ない、自分らしい走りができたと思います。4位という成績に対しては、うれしいのももちろんですが、何より最後に一つでも成績を残せてよかったとほっとしています。しかし一方で、それでも4位という、一抹の悔しさもあります。

私はこれからは、今までとは違う形で京大 OLC と関わっていくこととなります。それでも、自分を高めてくれたクラブに対する恩返しをしたいという思いがあり、また京大の選手が一つでも上に、できれば自分の届かなかった場所に行きたくて欲しい、という思いもあり、これからもこのクラブをサポートしていきたいと思います。

最後になりましたが、この最高のインカレの舞台を、応援して下さった方々、そして運営して下さった方々、本当にありがとうございました。

第5位 早稲田大学4年 太田 瑛佑

インカレで入賞できたこと、心から嬉しく思っています。レースでは2ポで3分近くのミスをしてしまいましたが、最後の個人戦でやっと結果を残せてほっとしています。

思い返せば足柄の新人特別表彰以来、個人戦の表彰台とは縁がありませんでした。奈良では最高のレースをして帰ってきましたが、暫定3位の「暫定」がとれることがないまま終わりました。

4年になり、結果を残さねばならないという気負いと焦りを感じていました。気持ちばかりがはやる一方で、ロングからかかってないスランプに陥り、ミドルセレもぎりぎりでも通過というあり様でした。年が明け、真剣に何が原因か考え続け、1月5日の入浴中に突然、答えは閃きました。そこから復調し、インカレではベストな状態で臨むことが出来ました。

思うように結果が出せず非常に辛い時期もありましたが、あきらめずにオリエンテーリングを続けてきて本当に良かったと、今回やっと思えることが出来ました。

最後に、この場を借りて今回運営して下さったインカレ実行委員会の方々、そして最後まで応援し続けてきてくれたOCのOBOGさん方、現役のみなさんにお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

第6位 金沢大学3年 北 翔太

今年度のインカレミドルは僕にとってとても印象的な、一生の思い出になりました。開会式ではトップスタートが決まり、選手宣誓。当日は目標としていたトップゴールを達成することができ、さらには表彰台に立つことができました。とても驚きました。周りのみんなも驚いていましたが、僕ほどじゃないでしょう。その日の夜は、これはすべて夢の中の出来事で、

目を覚ますと希望ヶ丘へ出発するところからやり直しになるのではないかと本気で疑っていたほどです。レース内容は、ビジュアルの後に気を抜いてしまうなど、反省点が多々残るものでしたが、この経験を生かし、これからもより一層精進していきたいと思います。金大 OLC のみんな、1 年間切磋琢磨し合って、来年のインカレも今年以上に盛り上がりよう！！

僕がインカレにおいてこのような成績を残すことができたのは、一生懸命応援してくれた後輩たち、指導して下さった先輩方・OB の方々、そしていつも競ってくれた同期たちのお陰です。最後に、応援して下さった方々、そしてこのような最高のインカレを開催して下さった運営者の方々に心からお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

女子選手権クラス

優勝 相模女子大学 3 年 芦澤 咲子

インカレから約一か月、今も本当に私が出した結果に信じられない気持ちでいます。

私の今年のインカレの目標は「思いっきり楽しむ」でした。プレッシャーをかけず、楽しんでおいでと言ってくれた人や競技に練習に集中できるような環境を整えて下さったオフィシャルさん、運営学年の後輩のみんな、応援して下さる方に対し、私ができることは誰よりもインカレを楽しみ早く会場に戻ることでと考え決めました。

今回の滋賀インカレは対策に悩み考え続けていました。私が 1 年生、2 年生のときのミドルは日光、岐阜椈の湖と高速レースが可能なところであったので今回の低速レース予想、日本屈指の微地形であるということには驚いてどう対処したらいいのか途方に迷いました。しかも似た微地形は関東になく唯一の機会であった三重の京大京女大会は怪我で不参加。その後もしばらく不調が続き辛かったときもありました。しかしできることはとにかくやろうと考え、希望ヶ丘の情報収集、入ったことのある人に現地の様子やどう走ったかを聞き、旧図を使って場所ごとの対策や予想コースを読みこみました。そうした対策のおかげか本番、レースは特別なことは考えずいつも通りやれば大丈夫と緊張せずに入ることができ、今まで練習でやってきたことを丁寧にしながら回りました。読んできた分滋賀希望ヶ丘の微地形の怖さも感じており不安でいっぱいでしたが、何度も教えてもらった微地形で気を付けるべきところ、CP、AP になるもの、走り方を思い出すことができ越えられたと思います。ペースも決して焦らず、速く走るのではなく確実に進むことを大切にして、全体的にとっても落ち着いてまとめたレースをすることができました。タイムのことは気にしないようにしていたので、ゴールしたときは結果のことは考えていなく優勝と知らせてもらったときとても驚きました。しかし私が帰ってくるのを応援し待っていてくれた仲間や応援してくれた OB さん方、片道 1 時間かかるスタート待機所から会場の道のりを私がスタートした瞬間から走って 25 分で到着してゴールの瞬間を見てくれたオフィシャルさんが喜んでくれたのを見て、とても嬉しかったです。最後にインカレを運営していただいた運営者の皆様、例年以上に素晴らしく、楽しい滋賀インカレをありがとうございました。

応援し最後まで支えご指導して下さった先輩方、皆様、ありがとうございました。

皆様の支えがなければ、きっと楽しむことはできなかったと思います。心から感謝いたします。

本当にありがとうございました！

準優勝 岩手大学 2 年 高橋 美誉

よっしゃあきたあああ！とゴールした時思いました。インカレミドルでは精一杯を出し切れたからです。レースの終盤で逆正置をしてしまい、最後の方はそのミス少し引きずったレースになってしまいましたが、自分なりにやり切った感がありました。そのため、レース自体は今の自分の最高のものだと感じました。また、ミドルに向けた目標はとにかく冷静に自分のレースをしていくということだったので、それができて準優勝と分かった後でもやけに納得していました。しかし、今はとても一つも悔しい気持ちです。まず、優勝した芦澤さんには目標の段階から負けていました。私は優勝するぞ！と

は考えておらず、自分の苦手なトレインだったこともあり、目標を低めに設定してしまっていたのです。本気で優勝したいと思っている人に、そう思っていない人が勝てるはずありません。ラップを見ると途中まで1位をキープしていたのですが、逆正置したところで2位になりその後もミスを重ね、2位に終わっていました。これを見たとき目標も精神力も完全に負けたと思いました。来年度はもっと目標を高く持ち、弱気ではなく強気で攻めていきたいと思います。

最後に、このような結果を残すことができたのは大会運営者の皆さんや、一緒に練習してくれた皆さん、応援してくれた方々のおかげです。本当にありがとうございました。

第3位 津田塾大学4年 星野 智子

4年間結局一度も優勝できずに終わってしまいました。

泣くほど悔しがるのだろうかと思っていたのですが、意外にもスッキリしました。レース前はかなり緊張するタイプだったのですが、今回はそういうこともなく、2ポで大きくミスをして特に焦ることもなく、あっという間に終わってしまったというのが率直な感想です。一つ良かったことはオリエンテーリングが楽しいと思えたレースだったことです。それはきっとゴールで待っててくれる後輩やオフィシャルさんがいたからだと思います。結果ばかり求めていたときは感じられなかった楽しさを、学生最後のインカレで味わえたことは貴重な経験になりました。

最後にインカレという最高の舞台を用意くださった運営者の皆様、ありがとうございました。あの晴れ渡った広場に向かってゴールレーンを走り抜ける爽快さは忘れません。

そして共に戦い、応援して下さったすべての皆さんに感謝します。次のインカレにOGとして参加するのは少し寂しい気もしますが、インカレに賭ける選手たちの熱気を再び感じに行くのを楽しみにしております。

第4位 お茶の水女子大学1年 稲毛 日菜子

初めてのインカレミドル。今回の目標は順位は気にせずオリエンテーリングを純粹に、全身で楽しむことでした。このように気負わなかったことが今回の結果に繋がったのだと思います。目の前にポストが見えた時は嬉しく、ビジュアル前から聞こえてくる沢山の応援の声に励まされ、最後まで全力で走り抜くことができたとても楽しいレースでした。しかし一方で、自分の未熟さを改めて実感した点も多くありました。立ち上がりで、気をつけていたにもかかわらず焦りからオーバーラン。ビジュアル後、気持ちが切れて逆正置。ゴール直後は悔し涙が出てきました。

自分はオリエンを始めてまだ1年も経っていません。それでも、全国の偉大な先輩方と同じコースを走れたことはとても嬉しく、良い経験になりました。課題はまだ山積みです。常に今の自分に満足することなく、上を目指していきたいです。

最後になりましたが、大きな声援を送ってくれたOLKの仲間達、様々なサポートをして下さったOB、OGの先輩方、このように強く心に残るインカレという大きな大会を準備して下さった運営者の方々に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

第5位 東北大学4年 佐野 まどか

自分にとって最後のインカレミドルで五位に入賞させて頂き、大変嬉しく思っています。

私は今回、初めてのA選手権でした。昨年度はAに入ろうと思っていたら、セレクションでポストを一つ飛ばしてDIS-Qになってしまいました。そのときの悔しい思いを経験したからこそ、今年度A選手権で走れると決まった喜びはとても大きいものでした。当日まで楽しみで仕方ありませんでした！

本番のレースは、ミスを抑えながらも集中力が切れる場面が所々あったため、自分の中では75点くらいです。読み込んだ希望が丘をとて満喫できました。後でタイムを見たら、接戦でギリギリ入賞だったようです。応援でパワーをくれた皆さんに感謝しています。

四年間オリエンテーリングをやってきて、今年が一番関わりが薄かったのですが、一回一回を本当に楽しむことができました。普段の悩ましい研究室生活から抜け出した先の、オリエンテーリング・東北大 OLC・全国のティアの皆さんはまさに癒しの存在でした！

大学生活で、かけがえのない経験をさせて頂きありがとうございました。

第6位 梶山女学園大学4年 小玉 千晴

【3年振りの個人表彰】

個人では、3年振りに表彰台に上がることができてとても嬉しいです。ミドルセレ以降、なかなかいいレースが出来なくて不安でした。しかし、逆に吹っ切れてミドルよりリレーを重視するようになり、いつもよりリラックスした状態でレースに望むことができました。レース内容はよくありませんでしたが、最後に結果を出せて良かったです。入賞が決まった瞬間、とても驚きました。それと同時に仲間が喜んでくれて、特に年上の方や同期のには「やっとな。」という言葉が多くもらい、とても嬉しかったです。

これまでのことを振り返ってみて、私は多くの方々に支えられてきました。今後も感謝の気持ちを忘れずオリエンテーリングを楽しみたいと思います。

今回のインカレは、視野を広くすること自分を見つめ直すいい機会になりました。4年連続表彰台に立てたことができ自分は幸せ者だと思います。支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました。

ミドル・ディスタンス競技部門 コース解説・講評

コースプランナー 寺村 大

今回「インカレ史上最高のコース」を目標にプランで意識したのは下記2点。

1 点目はいかにスピード感あるコースにできるか、である。今回のテライン「青年の城」は比較的走行可能度は悪く、また細かなアップダウン・微地形もあるため巡航速度は遅くなりがちである。しかしながら、ミドルコースの本質・醍醐味は高速での正確なナビゲーションだと考える。そのために通行可能度が良いかつ平坦なエリアを通る回しとする必要があったので、選手権スタート地区含め作成当初からおおよそのコース回しは決定していた。(そのせいでバス降り場からスタート待機所まで45分という長距離となったが、コースの質の確保のためには仕方なかった)

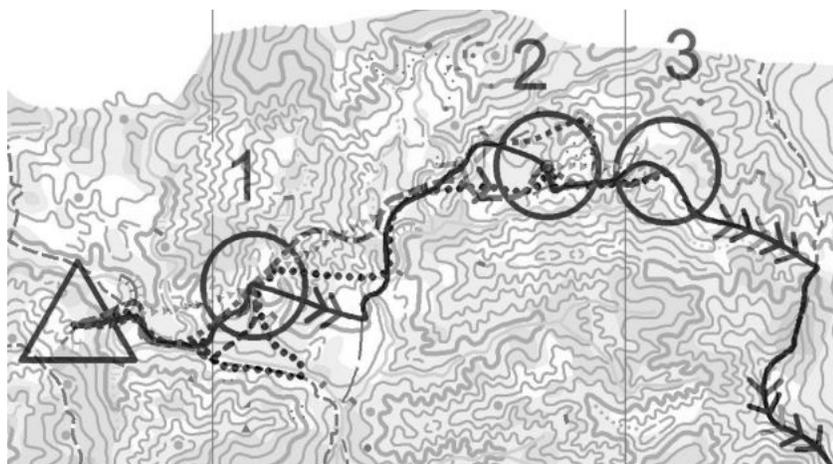
2 点目はいかに多彩な課題を盛り込むことができるか、である。ミドルの勝者に求められるのは、技術・体力・精神力だと考える。技術に関しては尾根辿り・尾根切り・直進・小径辿り、等多彩な技術課題を入れるよう注意した。また体力に関してもしっかりと追い込んで走れるよう道走り区間も設けた。そして精神力に関しては特にMEAにあるように12ポまで暗い山の中で、気の抜けないレースであったと思うが、その過酷な環境に打ち勝つタフさが求められるコースとした。その分、12ポを脱出してオープンに出たときの解放感と会場の仲間達の声援は、選手にとって極上の演出になったと思う。

次にレース結果を受けての感想であるが、優勝時間を見ると、MEAが36分台とほぼ適正だったのに対して、WEAは31分台と大幅に予想タイムを上回った。「日本学生オリエンテーリング選手権実施規則」第17条において優勝時間は35-40分と規定されており、それを守れなかったことは率直にお詫びしたい。その予想間違いの原因は下記3点。

- ① 過酷な試走環境...試走会を4回行ったが、雨天等の影響で環境が悪く試走タイムが伸び悩んだ。(過酷な中、試走にご協力いただいた運営者の皆様、ありがとうございました)
- ② 地図調査の遅れ...藪が多くかつ非常な微地形であるため、地図調査が遅れ、試走も調査が反映されていない地図を使用し、試走タイムが伸び悩んだ。(逆に言えば、それだけ完成した地図の精度は高かったということ。非常な困難を伴った調査に尽力いただいた三上さん、山川さん、西村さんに感謝)
- ③ 学生の底力...日本全国(むしろ世界中?) 見渡しても稀有な特徴を持つ「青年の城」において学生も苦戦すると予想していた。しかしながら地図読み等の対策の効果か、多くの学生はテラインに適応し、プランナーの予想を超える素晴らしいレースを展開した。

結局目標の「インカレ史上最高のコース」には到達しなかったと感じるが、それでも学生の皆様の思い出に残るコースになっていれば、プランナーとしてこれ以上の喜びはない。

MEA



——	細淵晃平	36:06	一橋2
----	結城克哉	36:18	東京3
.....	平野弘幸	36:58	東北2
.....	伴 毅	37:27	京都4
.....	太田瑛佑	38:09	早稲田4
-----	北 翔太	38:27	金沢3

△→1

小径からの正確なアタックが要求されるレグ。入賞者では結城が最速で6位ラップ。入賞者も1番とあって慎重にいった様子が見える。特に平野は1番の南東の小川の分岐からアタックして30秒ほど遅れる。また伴は1,2,3番と連続して直進を選択しているのが特徴的。藪や微地形の多いこのトレインでの直進には相当な技術が必要だと思うが、距離を節約できる面では有効な策といえる。尚、この時点でトップは東大の真保。真保が5番までトップを維持することになる。

1→2

レグ中央の小径までのルート取りと、小径から2番へのアタックにマイクロなルートチョイスがあるが、選択による差はほとんどない。太田は小径から離れるタイミングに失敗したのか、オーバーランし、3分ほど遅れる。

2→3

小径を使うのが速い。直進を選択した伴のみ30秒ほどの遅れ。

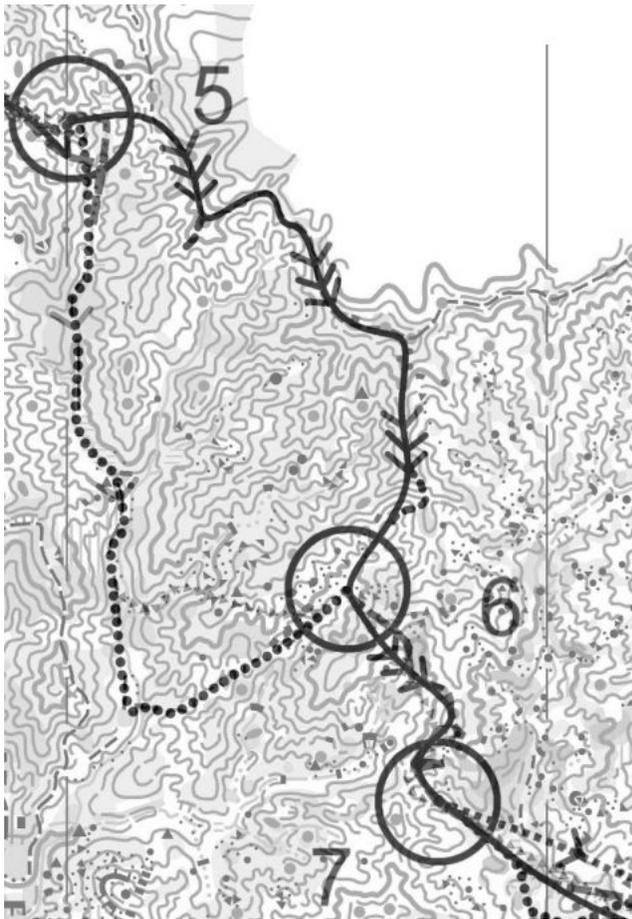


3→4

約300mの道走りを含むレグ。序盤の森の中とは切り替えて、どれだけスピードを上げられるかがポイント。アタックは2通り考えられるが、大差はない。

4→5

ショートレグながらポスト位置の正確な読図を必要とするレグ。細淵と結城はオーバーランし30秒ほどの遅れ。



5→6

東の尾根辿りか西の沢下りかの大きなルート選択のあるレッグ。前者を細淵・結城・太田・北が、後者を平野・伴が選択。

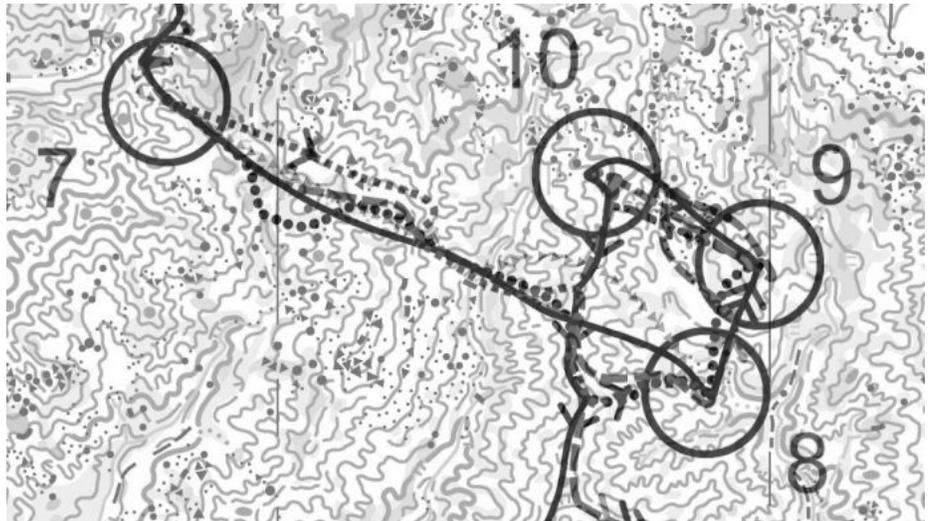
尾根上は細かな登り下りがあるため走りにくい。尾根の乗り換えにも注意が必要だが、アタックは簡単。一方沢は平で走りやすい一方、南北の沢線から離れるポイントを見定めるのが特徴物も乏しく難しい。したがって、どちらのルートも一長一短であり、結果を見ても大きなタイム差はない様子。ただ、北は尾根間違いを起こしたのか、1分ほどの遅れ。ここでトップラップだった細淵が積算タイムで5位から1位に急上昇。真保は1分半程度遅れ、5位に後退。

6→7

大きな尾根線や鞍部をとらえていけば、難しくないレッグ。ルート取りに大きなミスは見当たらないが、細淵は1分ほどの遅れ。ここで結城が1位にたつ。真保は10分以上のミスがあり、入賞戦線から離脱。

7→8

森の中のナビゲーション力を問うレッグ。直進+地形で現在地確認をしながら進むとよい。入賞者全員がレッグ中央の鞍部で現在地を確認している。アタックはほとんどの選手が尾根を下っているが、伴だけ沢からのアタックをしている。足場の良さやアタックのしやすさからすると伴のルートがベストだと考えている。



8→9

点状特徴物への正確なアタックが求められるレッグ。結城は大きく西にずれ、1分半ほどの遅れで4位に後退。細淵が1位に返り咲く。

9→10

岩石地帯や起伏がある中、正確な直進が求められるレッグ。入賞者はそつなくこなす。

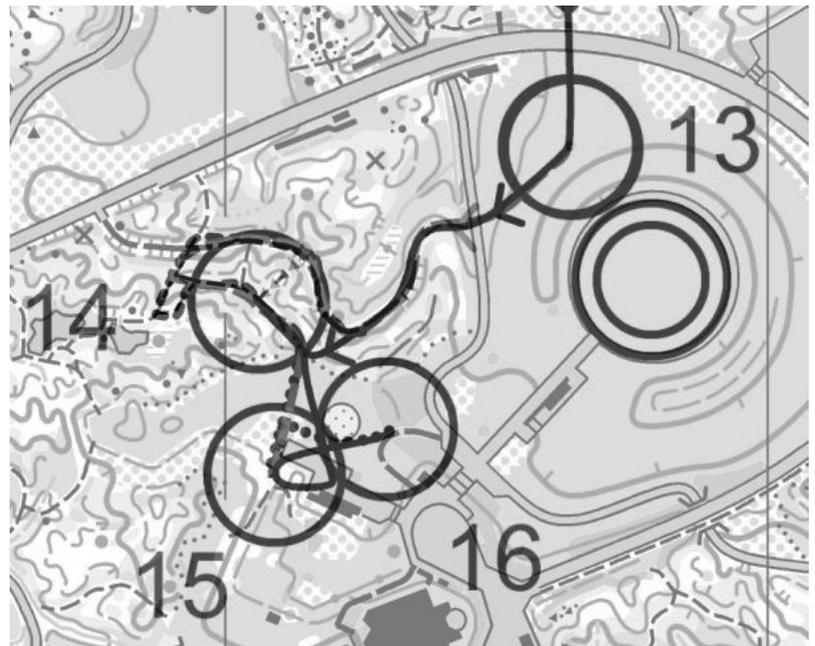


10→11

全長 400m 程度の尾根通り。尾根線の正確な乗り換え能力を問うレグ。細淵を除いて概ね想定の尾根通りをしている。細淵のみ別で、沢底に降りて 30 秒ほどの遅れ。ここで太田が 11 位から 6 位に急浮上。

11→12

5→6 以来の道が存在するレグ。冷静に切り替えられたかがポイント。北のみ大回りをして 30 秒ほど遅れる。



13→14

道でスピードが出せる一方、細かく分岐しているため正確な読図も必要なレグ。北はオーバーランし、1 分ほど遅れ、7 位に後退。一方で名古屋大学の菅谷が北と 3 秒差で 6 位に浮上。

14→15

細淵は東にルートがずれて、20 秒ほど遅れる。また北は菅谷を抜き返し 6 位に再浮上。

15→16→◎

終盤、結城の追い上げもあったが、細淵が 12 秒差で優勝。接戦の 6 位争いは北が菅谷を 3 秒差で抑え、入賞を勝ち取った。

コース全体として

序盤 6 番までは道を使ってスピードが上げられる一方、アタックには細心の注意が必要である。また中盤の 6～11 番は道もない中での正確なナビゲーション力を問うた。終盤の 11 ポ以降は、難易度は低いがゴール間近で焦る気持ちを抑えつつ、冷静にこなすことができるかが大事であった。

WEA



——	芦澤 咲子	31:54	相模女子3
----	高橋 美誉	32:49	岩手2
.....	星野 智子	35:36	津田塾4
.....	稲毛日菜子	35:53	お茶の水1
.....	佐野まどか	38:48	東北4
.....	小玉 千晴	39:37	福島4

△→1

小径から離れる地点を正しく見極められるかがポイント。稲毛のみオーバーランし、2分半ほどの遅れ。尚、トップラップだった高橋は10番まで積算トップを維持することになる。

1→2

基本はレグ間の小径を辿るレグ。しかし星野と小玉は小径辿りをミスし、それぞれ4分、6分ほどの遅れ。稲毛は小径を使わず、小川を辿っているが、2位ラップをとる。ここで芦澤が積算で2位に浮上し、10番まで2位を維持することになる。



2→3

小径を辿るのが正解。稲毛はここでも小川を辿り、今回は1分ほど遅れる。

3→4

全長300mほどで起伏のある道を含むレグ。純粋な走力が試される。稲毛が2位の高橋・星野を20秒ほど上回る快走を見せる。

4→5

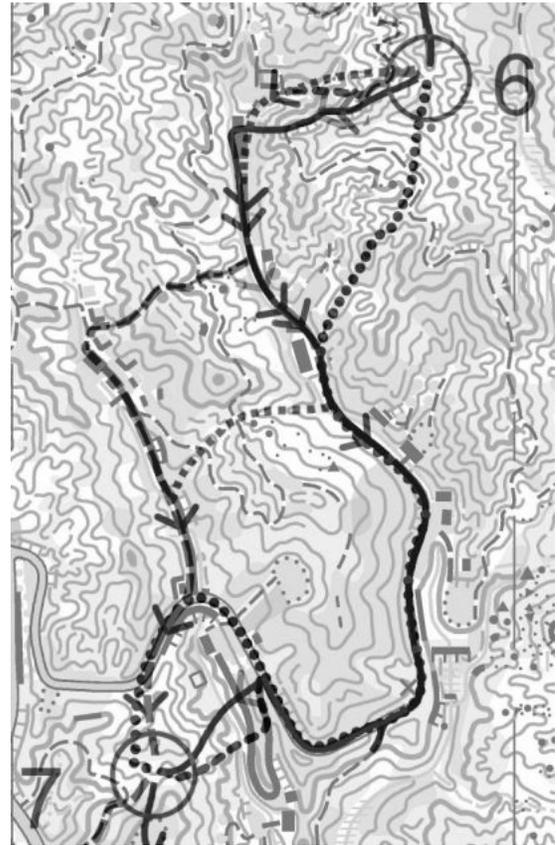
5番方向への正確な脱出が課題。ここで星野が30秒ほど遅れる。

5→6

尾根辿りか南西の道辿りかを選択するレグ。距離は尾根辿りが短い、尾根線が細く走りにくかったためかタイムは伸び悩む。一方、入賞者で唯一道走りを選択した稲毛はトップラップをたたき出す。

6→7

ルートを選択肢が多様なレグ。まず脱出はほぼ真西に行くのが正解。レグ線方向に脱出し、山の中を突き進んだ星野は30秒ほどの遅れ。また、中央の山塊を越えていった高橋と佐野もそれぞれ30秒、1分半ほどの遅れ。山塊を道で南側から迂回するルートをとった稲毛・芦澤・小玉が1位・2位・3位ラップを取ったことから考えるに、正解はこれ。

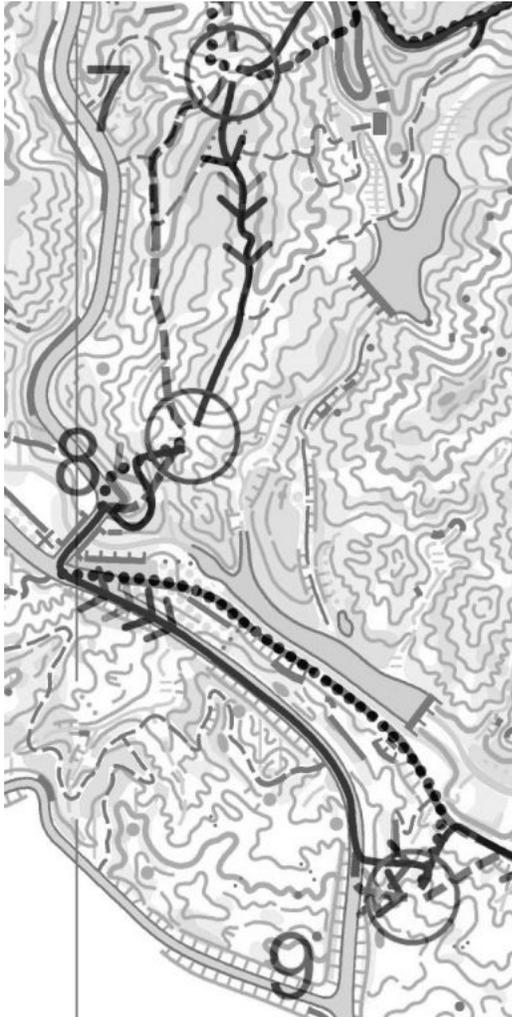


7→8

ルートは大きく2パターンに分かれるが、大差はない。入賞者は無難にこなす。

8→9

ルートによって大きな差はない。いかにスピード出して走れるかがポイント。



9→10

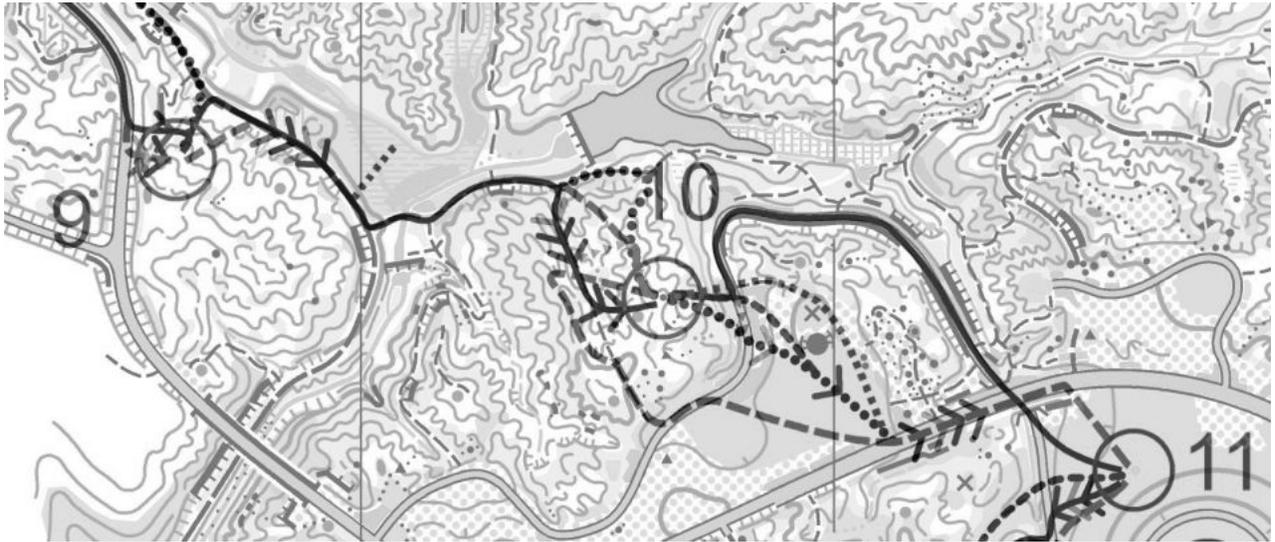
トップラップは芦澤で、これがベストルート。このテレインの特性上、山の中は巡航速度が落ちるためできる限り道を使うのが正解。佐野は途中、道辿りのミスで1分半ほど遅れる。

10→11

プランナーの想定ルートは星野のようにレグ線方向への脱出であったが、芦澤は舗装道を北に回って、3位ラップ。一方で高橋は逆正地をして1分ほどのミス。これによって高橋は2位に転落、芦澤が1位に躍り出る。

11→12

ここから MEA と共通。中間の小径に上手く乗れなかった、高橋と小玉は30秒ほどの遅れ。

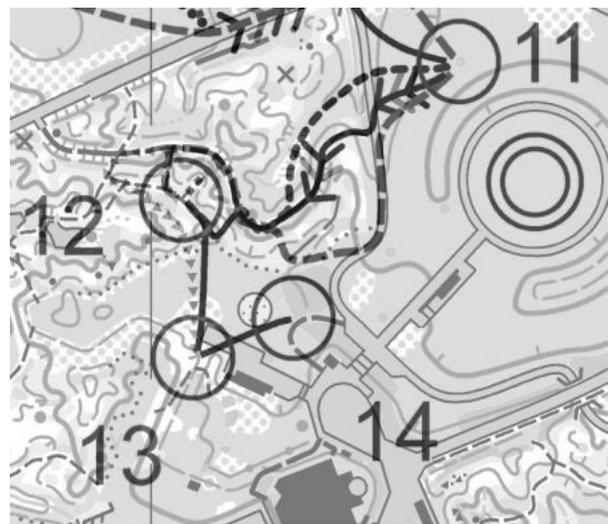


12→13

稲毛は逆走し、1分以上の遅れ。またここまで入賞圏内であった筑波の柳川も1分以上のミスで8位に後退。小玉が6位に浮上。

13→14→◎

優勝は芦澤。31分台とウイニングタイムを大幅に更新する快走であった。6位はそのまま小玉がお茶の水の田中を10秒差で振り切りゴール。



コース全体として

コース全体の難易度がそれほど高くない中、どれだけ集中力を維持し、ミスを減らせるかがポイントになった。その点で芦澤はミス率 6.4%と全選手中一の安定感であったのが、優勝の鍵となった。

リレー競技部門 入賞校コメント

男子選手権クラス

優勝 東京大学

真保

3 連覇のかかった選手権リレーの 1 走を走るということで、重圧も多少ありました。しかし、後ろに信頼できる二人の 3 年生が控えていたおかげで、最低限自分がトップ集団で来れば逆転して優勝してくれるだろうと思え、比較的緊張せずにレースに臨むことができました。その結果、レース中も自分の周りの人の様子を冷静に見ることができ、危険な微地形地帯はうまく人を使ってビジュアル後に引き離すという事前に思い描いていた通りのレースをすることが出来ました。今まで、何度も期待を裏切ってきたので、熾烈な選手権のメンバー争いの中で自分を選んでくれた東大生、チームをまとめてくれた 4 年生、応援してくれたみんなの期待にこたえられて本当に良かったです。ありがとうございました。

三谷

今年は 2 連覇の原動力であった世代が抜けて選手層が薄くなった上、テレインとしても今の東大が苦手な微地形テレインで苦戦することが十分予想出来ていました。ただ逆に危機感を持ってこのインカレに臨むことが出来たこと、そして選手権リレーに向けて今回走れなかった人も含めてみんなで切磋琢磨してきたことが 3 連覇の大きな要因だったと思います。僕自身は今年初めて選手権リレーを経験し、当日はプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、優勝という結果で OB・OG を含めた OLK のみんなの期待に応えることが出来たことを本当に嬉しく思っています。OLK 内部も含め新 3 年生は元気な人が多いですが、最高学年として最後のインカレでカッコいいところを見せられるように全力で今年 1 年臨みます！

結城

去年のリレーで優勝してから、2011 年度のインカレリレーで優勝して、3 連覇を達成するのがただひとつの目標になっていました。選手権リレーの経験があるのが自分だけであったこと、そして年の離れている OB・OG の方々も「東大」としての成績を気にかけてくださっていると知ったこともあり、絶対に負けられないと思っていました。OLK の主力メンバーであった 30 期の先輩方が抜け、チームの雰囲気が大きく変わり、また自身もケガで苦しみ、リレーの展望が見えなくなった時期もありました。しかし、最終的には 3 連覇という結果を収めることができ、本当にうれしく思っています。3 連覇できたのは、選手権クラスを走った 3 人だけの力ではなく、共に「優勝」を目指す仲間がいたからだと思います。来年も負けません。目指せ 4 連覇！

準優勝 一橋大学

1 走 細淵晃平

初めて一橋大学が入賞した去年度のインカレリレーで先輩たちのかっこいい走りを見て、来年度は絶対に ME でリレーを走りたいという気持ちになりました。ME に出なかった一橋の皆、オフィシャルの山上さんを含め、少人数でありながらもチームとしての団結力の強さを他大学に見せつけられたのではないかと思います。来年度も入賞・優勝争いができるよう準備していきたいです。

2 走 池田純也

人数の少ない大学で準優勝という結果を出すことができたのは、走った 3 人だけでなくチーム全員が一つの目標に向けて努力していったからだだと思います。卒業された OB の方々、今までかかわってくれていたオフィシャルの方々に結果で報いることができたのではないかと思います。一橋大学としてだけでなく OLK 内で特に東大と切磋琢磨をして、来年度も入賞・優勝できるチームを作っていきたいと思っています。来年の目標は三連覇した東大を超えていくことです。イ

ンカレの開催にかかわってくださった皆様ありがとうございました。

3 走 羽野嵩志

良い結果を残せたことを嬉しく思います。自分は引退しますが、頼もしい後輩たちが来年以降も強い一橋を見せていてくれると思います。ありがとうございました。

第3位 京都大学

1 走 寺田 啓介

今回のインカレリレーでは、目標は優勝でしたが、先ずは自分がみんなをひっぱって表彰台に立つという目標を掲げていました。これは去年の椈の湖インカレのリレー選手権でふがいない走りをしてしまい、表彰台にのったものの、それは他のチームのメンバーに「のせてもらった」ものであり、非常に悔しい思いをしたからです。そして、今回インカレリレー選手権を走り、その目標の最低限の部分は達成されたと個人的には感じています。しかし、東大との壁は厚く、その差6分。来年こそはその差を埋め優勝するためにも、これからしっかり精進していきたいと思います。

2 走 岡本 耀平

選手権リレーを走ることが初めてであるということと、前日のミドルでかなりミスをしてしまったことで、レース前は珍しく緊張してしまいました。しかし、コースが基本的に道辿りでそれほど難しくなかったこともあり、それなりにまとめられました。(ただ競っていて焦ったこともあり、それなりのタイムしか出せなかったことは悔しいですが。)来年は技術を磨いて、更に好順位を目指していきたいと思います。

3 走 伴 毅

昨年5位に終わった私たちは、今年優勝を目標に取り組んできました。実際、今年はいけるという思いで本番を迎えることができました。それに対する3位という結果は、間違いなく一つの進歩であったと思います。一方で、優勝できなかったことは、その進歩がまだ途上であったということだと思います。私自身も、喜びと悔しさの両方を感じています。これからも陰から、優勝を目指していく京大に貢献したいと思います。

第4位 名古屋大学

3 走 瀧本

優勝確実といわれる東大と、最強世代の抜けた名大。1年前の椈の湖、名大に勝ち目はないと誰もが思ったことだと思います。しかし、僕らにその気は全くなく、それぞれが自分の走順での役割を果たすという気持ちで臨みました。そして、残念ながら優勝を逃しましたが、準優勝を勝ち取ることができました。

今年は絶対的エースの松井先輩が抜け、名大の底力が試されるリレーだったと思います。自分を含めた内田、菅谷のリレーメンバー3人は、4年間互いに努力してきた仲間です。それぞれ不安に思うこともありながら、自分達3人ならやれると信じて最後のリレーに臨みました。内田-菅谷と4位でバトンを託され、序盤は自分でも驚くくらい落ち着いてレースができました。しかし、前を行く一橋、京大、に追いついてからペースが乱れてしまい、最後は順位を変えることができず4位でのゴールとなりました。過去4年にわたり、優勝と準優勝の台に立ち続けてきた名大を4位に落としてしまったことはとても残念です。この結果が今の名大の実力なのだと思います。しかし、今の名大は弱い大学ではありません。リレー一般クラスで2年3人が優勝。MIXも特別表彰+入賞という素晴らしい結果を残しています。メダル数は東北大にあと一步及ばず、山川杯を逃しましたが、来年は更に進化した名大を見ることができるよう。

最後になりましたが、今まで共に頑張ってきた同期、支えてくださったコーチやOB、OGの方々との最後のリレーを精一杯応援してくれた後輩達には本当に感謝しています。4年間ありがとうございました。

第5位 金沢大学

1 走:北

今年度で初めての1走ということもあり、いろいろとミスをしてしまいましたが、最終的には入賞ラインで石坂につなげることができ、金沢大学としては久しぶりのリレー入賞に貢献できたことをとても嬉しく思います。また今年は、金大不動のエースである辻さんが最終年であったので、表彰台に立たせることができホッとしています。

2 走:石坂

順位は気にせず、自分ができるオリエンを最後までしようとレースに臨みました。北も辻さんも速いので2人と走れば入賞できると信じていました。成績が振るわず悩むことも多かった1年でしたが、5位入賞という結果を得られてこの1年が無駄ではなかったとわかりました。リレメンの2人、応援してくれた部のみんなに感謝します。

3 走:辻晃

2走から引き受けた5位のままフィニッシュ。僕を信頼して、懸命に走ってくれた後輩、必死に応援してくれたチームメイト。必ず順位を上げてくる約束でしたが、期待に応えられなかった自分が悔しいです。ただ、金大男子団体は7年ぶりの入賞です。今は、みんなで勝ち取ったこの結果を素直に喜びたいと思います。

最後になりましたが、このような喜びを感じられたのも、インカレの舞台を用意してくださった運営者の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

第6位 東京工業大学

1 走:山本剛史

今年でインカレリレーを走るのは3度目でした。今回含め私は全て1走を走っており、1年目は1年生にしては健闘した9位、満を持して臨んだ昨年は1ポで隣ポに捕まり8位と不甲斐ない成績でした。東工大も2年連続7位と入賞ギリギリで逃してきましたが、その一因が私です。今年は大嶋さんの最後の年であり、絶対に入賞を望んだ年でした。結果は1走5位。東工もその後逃げきり、3年ぶりに表彰台に返り咲く事ができました。大嶋さんというエースが卒業されてしまいましたが、連続入賞できるよう精進したいと思います。

2 走:曾原直也

今年のインカレミドルはBエリート部内最下位と、不甲斐ない結果から始まりました。しかし、リレーでは2走として初めてエリートを走りましたが、そこではリレー入賞というかなり満足できる結果となりました。ただこれは他のメンバーによる所が大きく、さらにエースとして3走を務めた大嶋先輩も引退されます。次回はその中でも入賞に貢献できるよう頑張りたい。

3 走:大嶋拓実

最期をこのような最高のレースで締めくることが出来て非常にうれしいです。熱い走りを見せてくれたやまたけとソハティ、ありがとう。応援してくれたOLTのみんな、ありがとう。4年間共に走った同期のみんな、ありがとう。4年間のインカレ全部楽しかったです。

女子選手権クラス

優勝 金沢大学

1 走 横山 理恵

今回の難テレインでは、最もとんでいく可能性の少ない自分を1走に起用し、無難な順位でつなぐという作戦に出た。私は今回のテレインは自分向きだ、とある程度の自信を持っていた。前日の個人戦で散々な走りをするまでは、3人中で一番ひどい走りをしたにも関わらず作戦は敢行、私は1走のままだった。不安だけがひたすら増した。そんな私の性格を知り尽くしている池嶋・帖地。出走直前まで私を励ましてくれた。必ずつなぐ、と強く思った。そのお陰か本番では落

ち着いて自分の走りができた。そして会場で 2 人は信じて待っていてくれた。もの凄く、嬉しかった。私が会場に姿を現すまで、2 人は私をずっと心配していたという。変な心配をかけてしまい申し訳なかった。来年は心配をかけない堂々とした走りをしたい。

2 走 池嶋 美佳

「他大等でライバル視や尊敬している選手は」優勝後に記者の方に聞かれ、「横山と帖地です」と即答している自分がいた。私の場合、それは他大やプロの選手ではない。この 2 人とは、練習を何度共にしてきたか。私たちは常に 3 人で切磋琢磨してきた。私には決して無い、オリエンのセンスをもつ横山と、勝負強さをもつ帖地。私はこの 2 人を本当に尊敬し、追い付きたいと思っている。今回のリレーはそんな横山から貰ったものを帖地につないだ。山の中で何度 2 人が頭をよぎったか。他人のためにここまで速くなりたいと思ったのは始めてだった。2 人とも本当にありがとう。2 人を尊敬し、追い付きたいという気持ちはずっと変わらない。

3 走 帖地 藍

インカレまで、私達のリレーは誰かがペナしたり走順がしっくりこなかったりと失敗ばかり。それ故今回の結果はとても喜ばしいものだった。だが、私には微妙な優勝となった。本番は 2 人が必死つけてくれた大差の中で 3 走の私がかどこまで粘れるか次第となった。しかし、「追いつかれないだろう、追いつかれても自分より速い人達だから仕方ない」と、逃げ腰の自分がいた。その結果、危うい優勝になってしまった。二人の頑張りを踏みにじってしまった事、こんな気持ちで走ってしまった事に本当に後悔している。そんな自分を温かく迎え入れてくれた 2 人、本当にありがとう。来年は、仲間の気持ちを大切に攻めの姿勢で走りたい。

最後になりましたが、私達を応援して下さいました金大の皆さん、支えて下さった皆様、大会関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

準優勝 お茶の水女子大学

一走 田中千晶

今年のリレーはお茶大として 3 人で走ることができ、しかも 2 位という結果で表彰台に立つことができ本当に嬉しかったです。この一年間色々なことがありましたが、それらを一緒に経験し高めあってきた仲間とだからこそ本当に良いチームを作ることができ、当日も安心して走ることができたのだと思います。今までお茶大を引っ張って来て下さった春名さんは卒業してしまいますが、これからもまたそのような良いチームで走ることができるよう新歓や練習会など一つ一つ頑張っていきたいです！

二走 春名敦子

今回のお茶大は大型新人を迎え 16 年ぶりに正規チームとして出場する事が叶いました。この 1 年、少人数ながらもそれぞれが実力を磨き、リレーチームとして絆を深めてきました。4 年の私にとっては最初で最後の正規チーム出場だったのですが、頼もしい後輩達のおかげでリレー準優勝という素晴らしい結果を頂き大変嬉しく思います。このような結果を得られたのはもちろん 3 人の力だけではなく、応援して下さいました周りの方々のおかげです。本当に感謝しています。お茶大はチームとして復活できましたが、まだまだ少人数です。後輩達にはまた新たなお茶の水女子大 OLK の歴史を築いてもらいたいと思います！

三走 稲毛日菜子

3 走の私は、前 2 人の先輩方がつくってくれた勢いを殺さず最後までつなげるだけでした。

2 走の春名さんを笑顔で迎えてタッチ。あとはひたすらゴールで待っていてくれる先輩たちを想像して走って、走って、走りました。レース内容はかなりひどかったけど、結果にはとても満足しています。4 年生の春名さんと、3 人しかいないこのお茶のメンバーで表彰台に立つことができとても幸せでした。

第3位 岩手大学

インカレリレーの感想 關 明日香

今回のインカレリレーでは事前の予想順位で岩手が一位となっていました。私たちは女子エリート選手三名で構成されていたチームで、過去インカレの上位入賞者二名を含んでいたため、優勝が期待されていました。今回のテレインは岩手の苦手とする微地形だったので、わたしたちは誰かひとりでも飛んだら入賞は難しくなるだろうと思い、不安と緊張でいっぱいでした。レース中に自分がミスをしてとても焦りあきらめそうになっていたときファイト！と声をかけてくれた人や、ビジュアルでたくさんの人に応援してもらったことで最後まで走り切ることができました。そして、自分のミスで入賞もあやうくなっていたときに大丈夫！美譽がなんとかしてくれる！と励ましてくれた先輩がいたことで、チームを信じていることができ一杯応援することができました。結果として、私のミスが大きくレースに響いてしまい、チーム全員の目標としていた優勝を逃してしまい、期待に応えることができませんでした。私がモチベーションを保つことができなくなって練習不足になっていたことが敗因です。反省しか思いつきませんが、三位という結果は格別にうれしいです。わたしたちのチームには信じている人がいるという証だと思っています。来年はこの舞台で入賞争いができるかどうかわかりませんが、リベンジするためにも練習を怠らないようにしていきたいです。最後に、岩手を応援してくださったすべてのみなさんと運営者のみなさんに感謝します。やっぱりオリエンテーリングって楽しい！！

第4位 東北大学

昨年一昨年も悔しい思いをしました。しかし、今年も優勝は叶いませんでした。

平方・沢田・佐野で臨んだリレーでしたが、レベルが拮抗している選手が多く、これは前日まで悩みに悩んで決まったメンバーでした。選手権リレーを走りたいという何名もの思いを背負って三人で走りました。

平方率いる女子軍が一丸となって優勝を目指して来ました。リレーに向けての話し合いは誰もが意見を出しやすい雰囲気でお互いの切磋琢磨につながったと思います。また、ずっとサポートして下さった東北大 OB の影山奨さん、OGの水野綾子さんには心から感謝しています。

個人的には、三走で体力的限界が来てしまったことが悔やまれます。そして、優勝できないまま最後のインカレを終えてしまったことも悔やまれます。

東北大が再び優勝するときに絶対来ると信じています。もう卒業するので自慢しますが、東北大はほんと実力者揃いなんですよ^^後輩達の今後の活躍を心から応援しています！

第5位 相山女学園大学

2年前に相山が初優勝を飾った瞬間は、今でも忘れられません。そして昨年度、同じメンバーで二連覇。すばらしい結果を残した先輩方の姿を見て、私を含め、他の多くの相山生が感銘を受けました。

柴田先輩と水野先輩、2人のエースが不在となった相山は、優勝はもちろんのこと、入賞すらも厳しいのではないかと周りからも言われるようになりました。しかし、私たちの目指す目標はやはり優勝でした。確実な有力選手がいるわけでもなく、誰がメンバーに選ばれてもおかしくない状況の中で、小玉先輩を中心に、立候補者が主体となってインカレリレーに対する意識を高め合ってきました。仲間の中で最高のライバルを持つことで、お互いに刺激し合って、より磨きがかかりました。

リレーメンバーが決まった時は、不安も多かったですが、やがてその不安は楽しみに変わっていきました。そして、リレー当日まで3人で積極的にコミュニケーションをとって、チームワークを深めてきました。

今回、5位という悔しい結果で終わり、決して満足はしていませんが、最低限の目標であった入賞ができて嬉しかったです。そして相山は今回、WUR クラスで2位かつ新人賞をとりました。これからの相山の成長・活躍に期待したいです。

第6位 相模女子大学

入賞を果たすことができ、とても嬉しく思います。去年と同じ入賞メンバーということもありプレッシャーを感じることもありましたが、周囲の応援や去年よりも結束が強まったメンバー同士の支え合いもありインカレまで来ることができました。女子選手権はスタートから3走終盤まで勝負の見えない大混戦となり1秒1秒が緊張し仲間の帰りを待っていました。走ってみれば1レース中に悔しいことや、もっとできたこと、他のメンバーに対し申し訳ない気持ちの場面も多くありました。しかし3人で走り切ったこと、つなぎ入賞までできたことは相模女子大学にとって大きなことです。来年からずっとチームを支え走ってきた池澤先輩が卒業され、新しいチームとなります。今年のインカレで学んだこと、嬉しかったこと悔しかったことを忘れずに来年、また来年大きく成長をして帰ってきたいです。

最後になってしまいました。運営をしてくださった運営の皆様、応援してくださった皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

リレー競技部門 コース解説・講評

副競技責任者 崎田 孝文

ME(1・3 走)

*コントロール番号は A/B パターンと一致。

△→1→2

3 パターンに分かれているが、どのパターンも難易度は高くなく、確定点から方向維持すれば簡単にクリアできる。3 パターン毎に大きく異なる方向に進むことになるので、動揺せずに冷静に手続きをこなすことが重要。

2→3

いくつもルートが考えられるが、マクロには 2 番コントロール北側の南北に走る主要道を T 字路まで引っ張り、そこから小径と小径をつなぎ、3 番コントロール西側からアタックするのが最も速いと思われる。3 番コントロール東側の小径からアタックするルートも考えられるが、僅かに距離が長く、手続きも増える。

3→4

尾根をたどり 3 番コントロール北西の小径に出た後、岩石群のある沢を下って尾根を越えるレグ。視界が悪いため比較的難易度が高く、長い道辿りの後でもあり、意識を切り替えて丁寧に手続きを行う必要がある。小径を引っ張るルートも考えられるが、少々距離が伸びてしまう。

4→5

小径を引っ張り、池の北側に出てからルートが分かれるレグ。①尾根を切るルート②小径を引っ張り沢を登るルート。アップのロスも少なく、通行可能度も比較的高いため、①の方が速いと考えられる。

5→6

これも 3 パターンに分かれるレグ。アタック自体はどれも簡単であるが、どれも似たような方向にアタックしていくため、周りに惑わされないことが重要。

6→7

主要道から池を周りこむようにアタックすれば、問題の無いレグ。

7→8

小径から沢を見てアタックするレグ。手前の沢に釣られなければ問題の無いレグ。

8→9

主要道の曲がりがアタックすれば問題の無いレグ。

9→10

主要道に出戻り、小径に乗り換えコントロールがある大きな沢を登っていくレグ。似たような地形が多くアタックは一見

難しそうだが、大きな沢の曲りをとらえれば簡単にこなすことができるレッグ。

10→11

正確な尾根辿りが要求されるレッグ。精度が求められるが、コントロール手前の傾斜変換をとらえることができれば、なんとかこなすことができる。

11→12

コントロール東の小径に乗った後、小径～主要道とつなぎ、誘導を逆辿りするのが最も速い。

12→13

アタックで正確に方向を定めれば問題の無いレッグ。しばらく道走りが続いたので、意識の切り替えが重要。

13→14

一見非常に単純なレッグに見えるが、道の辿りミスなどによるロスが意外と誘発されやすいレッグ。的確に道を乗り換えていくことが重要。

14→15

アタックポイントをはっきり決め、方向維持してアタックすれば問題の無いレッグ。ここで前後の選手との差を確認できる。

15→16

道を引っ張りアタックするレッグ。小径からアタック時の高さに対する意識が重要だが、道の曲り・傾斜変換で容易に高さを把握することができる。

16→17

小径を引っ張りピークもしくは道の分岐を捉えてアタックすれば問題の無いレッグ。

17→18→19→◎

18番コントロールのある広場に出るまで正確に乗り換えさえすれば問題の無いレッグ。
あとは、最後のスプリント勝負！

WE(1・3 走)

*コントロール番号は A/B パターンと一致。

△→1→2

ME 参照。

2→3

道の曲りからアタックするだけの簡単なレッグ。前半だけに、テンポ良くこなしたい。

3→4

小径と舗装道をつないでいくレグ。辿り間違いと、アタック時のパラレルエラーに注意したい。

4→5

小径の曲りから沢を登り、鞍部からアタックすれば、自然とコントロールが目の前に現れる。

5→6

コントロール南の小径へと脱出し、小径の曲りからアタックすれば問題の無いレグ。アタックポイントと類似した地形が多いため、ショートなどによる僅かなタイムロスを防ぎたい。

5→6

道をつないでアタックするレグ。下り基調の長い道走りでいかにスピードを出せるかが勝負。

6→7

ME の 7→8 参照。

7→8

素早く舗装道へと脱出し、道の曲りからアタックするレグ。舗装道と、2 番線の 2 ルートが考えられるが、ルートによる大差はないと思われる。

8→9→10

ここまでスピードが要求されるレグと大きく異なり、急に正確な手続きが要求されるレグ。しっかりと気持ちを切り替え、丁寧なナビゲーションをしたい。

10→11

コントロール東の小径に乗った後、小径～主要道とつなぎ、誘導を逆辿りするのが最も速い。

11→14

ME の 12→13 参照。

14→15

一見単純な道走りレグに見えるが、複雑に小径が発達しているため、乗り換えミスに注意したい。

15→16→17→◎

16 番コントロールのある広場に出るまで正確に乗り換えさえすれば問題の無いレグ。あとは、最後のスプリント勝負！

リレー競技部門におけるパターン振りミスについての報告

競技責任者 海老 成直

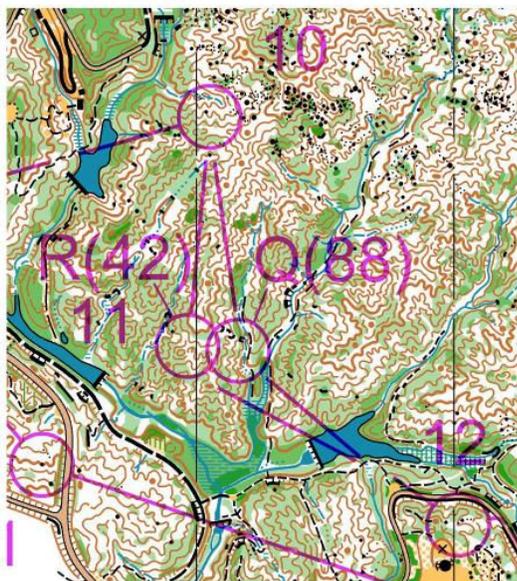
リレー競技部門男子選手権クラスにおいて一部公平性を欠く事象が発生しました。成立までの経緯の概略について下記の通りご報告致します。

・リレー競技部門男子選手権クラスにおいて、同一パターン内にも関わらず、4 チーム(京都大学、慶應義塾大学、千葉大学、一橋大学)が共通ではないコントロールを通過するコースが混入していた。

・実行委員会としては4 チーム以外の混入の有無を確認した後、実行委員長とイベントアドバイザーと競技責任者で協議し、公平性を欠く事象であるため該当校ならびに参加校に対して情報を開示した。

・男子選手権クラス参加校のオフィシャル並びに代表者に対して本事象について報告をし、迅速な競技の成立・不成立の判断のため、調査依頼ではなく異議のある学校においては迅速な提訴状の提出を求めた。

参考:当日配布資料



MEの1走:BRZ, BRX, CQY
CQXのパタンにおいて11番
コントロールの振りミスが
ありました。正しくは、R(42)、Q
(88)のところ、京都大、慶
応大は1走3走とも42に、一
橋大、千葉大は88に振られて
いました。

・1 件『競技の公平性を欠く問題である以上不成立とすべき』という旨の提訴状が提出されたため、裁定委員 3 名によつて裁定協議を行なった。その結果、競技成立となった。

・裁定委員 3 名の見解は下記の通り。

理由:上記主張はひとつの考え方として、考慮に値する。しかし、規則は競技が公正に行わるために、定められているものであり、「規則に反するから、すなわち不成立」という解釈でなく、公正さの損失の度合いにより、不成立かどうかを判断する。考慮する点として、

- ・ 当該 4 大学からの提訴がなかったこと
- ・ ラップデータを比較すると、本件における当該 4 大学間の当該 2 レッグ分のタイムの差異は最大 30 秒程

度と考えられること。

それらにより、全体成績への影響は軽微であると判断する。また、加盟員自身の「インカレを不成立にしたい」という意見書も寄せられている。これらを総合的に判断して、大会は成立とする。

今回の事象の起因

- 今回の事象の直接原因の経緯は下記の通り。

大会本番 2 週間前準備時の地図印刷・封入作業の際に、WE のコースのみを修正し印刷を行ったが OCAD のデータ上で ME のコースも誤って修正されて印刷されていた。ME のコース印刷後山川氏が気づき、ME のコースを再修正したのち、修正前の地図と修正後の地図の入れ替えを指示し入れ替えを行なったが、結果的に数枚を入れ替えてきておらず、先に報告したような事象が起こってしまった。

反省点と対策

- 今回の反省点としては上記の事象が起こった時に競技責任者が不在で、最終の入れ替えチェックを怠っていた。この後地図封入のチェックは行っているが、今回の修正をチェック項目には入れていなかったため、その際にこの修正を発見するのは非常に困難だったと考えられる。

- 今回の事象の遠因としては、下記の 2 点が挙げられる。

- チェック体制の不足

今インカレだけのことではないと思うが、チェック体制を整備することがミスを起こす確率を低下させてくれるのは間違いない。ただ、競技的に精通している人でないと間違いを発見・指摘できない事項が多いのも事実であるため、チェックできる人も限られる。いかに複合的なミスを防ぐか、各フェーズできちんと確認を怠らないことが必要である。

- 競技用地図納期、印刷の遅れ

今回競技用の地図印刷を行ったのが大会当日の 2 週間前と 1 週間前である。これは当初のスケジュールリングからはかなり遅れている。コース印刷の遅れはその後行程の遅れにつながるし、十分チェックの時間を取れないこともある。なにより時間的な余裕のなさは精神的な焦りにつながる。今回の地図印刷の遅れの原因は地図調査の進捗の遅れと、それに伴ってコースの最終調整も遅れたことである。インカレの競技用の地図の質と納期については永遠の課題ではあるのだろうが、折り合いをつけなければ今回のようなミスは繰り返されると感じる。

アンケート結果報告

本年度のインカレ開催に先立ち、全加盟員を対象としたアンケートを実施し、たくさんの皆様にご協力いただきました。誠にありがとうございました。ご報告が遅くなりましたが、下記の通り、その結果を報告いたします。要望を受け入れられたものもあれば、そうでないものもあります。ぜひ来年度以降のインカレ運営にも生かしていただきたいと思えます。
※自由回答欄については、出来る限りすべての意見を掲載するようにしていますが、内容の重複等の理由により掲載を見合わせたものがあります。あしからずご了承ください。

Q1-1.2010 年度岐阜インカレ選手権 A,B がほぼ同一コースだったことについて

- A:いい方法だと思う :166 名
- B:完全に同一コースがいい :38 名
- C:全く違うコースがいい :47 名
- D:その他 :9 名

(自由回答欄)

- A:A,B どちらの選手にもモチベーションとなるから
- B:比較のしやすさが有るから。
- B:A はスタート時間をずらしているだけでも特別感がある。
- B:B の人が比較し、成長のきっかけにするべき。
- D:ほぼ同一にするくらいなら、いっそ完全に同一コース、あるいは全く違うコースがいい
- D:5・6 割同じがいい・半分くらい同じがいい
- D:コースはほぼ同じにして、距離だけ短くするというのは
- D:A エリートの高難易度が確保されれば何でもよい
- D:同じコースにして B エリートが 1 位より速かった時、棒のボーダータイムが B エリートの方が A エリートより速かった時にいろいろやこしいことになるので、完全に同じコースはやめてほしい

Q1-2.リレー競技の選手権クラスにおいて 2 走のコース距離が 1,3 走に比べて短いことについて

- A:いいと思う:210 名
- B:すべて同じ距離がいい:41 名
- C:その他:9 名

(自由回答欄)

- A:戦略性が生まれて面白くなる
- B:純粋に戦略が組みづらい
- C:全部異なる距離がよいと思う
- C:本当の意味で選手権リレーとしての実力を問う為には、全て同じ距離がいいと思うが、より多くの加盟校の出場・完走を促進するためには、2 走を短くすることは有効なのではないかと思う
- C:どちらでもいい。ただ女子はレベル差が激しいため完走率が大きく上がるなら 2 走は短くしても良いと思う
- C:2 走を短くするとどの学校も 2 走に遅い人を持ってきてしまい、つまらない展開になってしまう
- C:2 走を短くすることによってこだわらないでやってほしい
- C:1・3 走と 2 走を分ける必要があるのか疑問

Q2.例年参加者全員に配布している報告書を、本年度は日本学連、各加盟校および各準加盟校にのみ(各校につき一部)配布し、それ以外は希望者への販売とすることを検討しています。それによって、一人あたり約 500 円の参加費値下げが可能となります。

Q2-1.報告書の各人配布を廃止することに対して

- A:賛成 :233 名

- B: 反対 :33 名
C: その他 :4 名

(自由回答欄)

- A: 参加費があまりにも高すぎるから、少しでも安くしていただきたい。個人的には1回しか読まないため、各校1部でも事足りると思う
A: 参加費が安いのに越したことは無いから。(もう少し写真などを多く載せてほしい)
A: 実際あまり読んでいない為、一人一部はいらぬ。大学に一部あればいい。
A: インカレ参加者は全員報告書に目を通すべきだと思うが、人数分の報告書を用意しても大量に余ってしまうことや、実行委員の手間を考えると、希望者のみへの販売も意義があるのかもしれない。基本的には全員受け取ってほしいと思うが。
A: 一校に一部あればいいと思うが、人数比で出場者数の多い大学には複数の報告書を配布すべき。
A: 十分な数販売されるのならOK。でも数の見極めは難しいのでは？
A: 売ののなら商品なのだから、そこそこのクオリティーが求められると思う。
A: 結構持って帰るのが面倒
A: データ配信で良いのでは？
B: 自分たちに無関係な事ではないと思うし、読みたい時に読めなくなりそうで嫌だから
B: 500円値下げしてもそれほど変わらないので、それならば欲しい。個人用の方がじっくり読める。
B: 全員目を通すことが大事
B: ルート検討等報告書を各人自由に読めるという状況は結構重要
B: 一人一人所有したい人もいると思うから
B: 配布されるから読むのであって、わざわざ自分で買わないと思う。購入が面倒。
B: 思い出が冊子で残るので今まで通り一人一部もらえたら嬉しい。たぶん一校に一冊だと読まないと思う。
C: 思い出になるし、報告書から学ぶことも多いため必要。ただ必要のない人もいるから販売にするのは良いと思う
C: ネットに公開しても見ないが冊子があれば見ると言う人がいるかもしれない。

Q2-2. 報告書の販売に関して

- A: 500円なら買う:34名
B: もう少し安ければ検討する:79名
C: 買わない:121名
D: わからない:35名

Q3. 経費削減の一環として、モデルイベントの開催日を従来の木曜・金曜の2日間ではなく、金曜の1日のみの開催とすることを検討しています。木曜日にモデルイベントが開かれた場合、

- A: ぜひ利用したい:11名
B: 利用を検討する:48名
C: 利用しない:215名

Q4. 2011年度滋賀インカレについて期待すること、意見など(フリーフォーマット)

- a. インカレ公式 Twitter(@icm2011)について
- 目に付きやすいように、頻繁にツイートしてくれると嬉しい。
 - 盛り上がりがわかって良いと思った。
 - 各大学紹介、新人に関してやリレー予想等
 - twitterよりもブログのほうが適切。流れが速いツイッターでは情報を見逃す。
 - 必要な情報はプログラムで十分ではないか。
 - 広報はブログ、速報はツイッターでもOK
 - ツイッターは広報としては不向き。やっていない人が多い。
 - インカレの展望など、主観的でもいいから流してほしい。
 - インカレに来られない人のために結果速報が可能なら行うべき
 - 賛成。どんどん活用してほしい
 - Twitterの情報を表示するモニタ等があれば面白いかもしれない
 - 来られない人のための速報があると面白いと思う
 - フォローしています。このままの感じで続けてほしいです。
 - Twitterを利用する試みはいいと思う。ただし、Twitterをやっている人にしか得られない競技情報はツイートしないよう注意してほしい。

・情報格差が生まれるため、あんまり利用しないほうが良いと思う。

b. 開催前について(プログラム、その他広報など)

- ・観戦ガイドブックを各大学に1部は無料で配布してほしい
- ・カラフルでわかりやすいプログラムがいい
- ・プログラムは全員分必要
- ・プログラムは早めに配布してほしい。
- ・プログラムはできるだけ早く出してほしい。みやすいものを。わかりやすくしてほしい。
- ・コース説明とコース範囲を早めに知りたい。
- ・新人でも分かりやすいシンプルなプログラムがいい。
- ・広告費をもう少し安くしてほしい
- ・例年通り、プログラムに各大学のOBさんOGさんの応援メッセージなどが載っていたら楽しいしその選手に注目するし、その大学のクラブの楽しそうな雰囲気も伝わっている。

c. 前日について(モデルイベント、開会式など)

開会式の時に大きな荷物があると通行の妨げになるため、例えば荷物置き場のようなものを設ける、などの策を講じてもらえると嬉しい。

- ・シード選手パネル掲載エリアをもっと広くするべき。
- ・レース直前に選手に多くの時間を割かせないよう必要最低限にしてほしい。
- ・会場が広めだと嬉しいです
- ・モデルイベントの時間を長くしてほしい。
- ・開会式会場は全員入れる所にしてほしい。
- ・時間に余裕をもったタイムテーブルにしてほしい。
- ・楽しい開会式を期待。
- ・開会式の会場からモデルイベントの場所までの距離を短くしてほしい。
- ・開会式を運営する学生(学校)の人の待遇を良くしてあげてほしいです。去年は事前準備も当日もそこそこ大変でした。昼ごはんの弁当ぐらいなら用意してあげてもいいと思います。

d. 宿泊・輸送について

- ・食事がバイキング形式で、とても良かった。今年もそうしてほしい。
- ・質より安さを重視してほしい。
- ・昨年と同様の方式でいいと思う。大学間の不公平感の解消に取り組んでいただきたい。
- ・昨年度は遠く、ミーティングルームもなかったので検討してもらいたい。
- ・運営の手間を考えれば宿泊・輸送の方法を各大学にゆだねる方がいいと思う。幹旋だとどうしても高い宿に当たってしまったりと不公平がある。
- ・宿に大浴場があり、MT できる部屋がある場所が良い。ビジネスホテルみたいな所は嫌だ。輸送をもっと充実させてほしい。例えば、新宿～会場などのバスも運行してほしい
- ・宿はクラブ全体で同一がよい
- ・昨年、スタート地区での輸送でバスの乗り継ぎなどが分かりにくかったので、今年は改善してほしいです。シャトルバスの情報をできるだけ早く欲しいです。
- ・宿から会場までの交通で、時間ギリギリに到着と言ったことがないようにしてほしい
- ・宿を何種類か用意してほしい。キャバがある宿泊所も数種類用意してほしい。
- ・モデルイベント関連のバス輸送や、宿からインカレ会場への輸送はあった方が便利。
- ・無駄に豪華な旅館だったり、ビジネスホテルなのに高かったりするのはやめてほしい。
- ・日本旅行はお金を取りすぎな気がします。
- ・ミーティングを行いたいのので、大人数で集まれる場所がある宿も用意してほしいです。

e. 選手権 A,B の競技方式について

- ・出来れば、ゴールへの誘導を間違えにくく作ってほしい。2010年度は、併設クラスのゴールと選手権 Bクラスのゴールを間違えた人がいるので。
- ・選手権 Bクラスを併設と統合しても面白いとは思いますが、基本的に現在の方式でいいと思う。
- ・各競技者の状況がわかる、盛り上がる実況をよろしくお願いします。
- ・女子選手権 A を 20 人とすると少なすぎてさみしいと思います。

f 当日の演出について(ミドル・リレーとも)

- ・観戦エリアを拡大してほしい。
- ・例年通り、運営者側の工夫に期待したい。
- ・ラスボゴールの長さを長くしてほしい
- ・表彰式にBGMを流してほしい。

- 応援エリアを広く開放してほしい。インカレテーマソングもほしい。
- 奈良インカレのように会場ゴールでないインカレは盛り上がりがないのでやめてほしい。
- 各走順全ての人が出走したら、会場でコース地図を公開する。
- ラジコンでムービー中継とか。
- 展開がリアルタイムでよく分かるような演出、速報をお願いします。
- リレーはビジュアルがほしい。
- ビジュアルなどで、今どう展開なのかが一瞬で分かるようにしてほしい。リレーは併設でもビジュアルがあると嬉しい
- 表彰式は花束いっぱいワイワイやる感じがいい。
- 去年はたしか競技の映像も流れたと思うのですが、あまり見た記憶がないです。放送(ラジコン)だけでも十分楽しめます。
- 走り終えた直後の選手のインタビューも楽しみです。

g. その他、インカレ全般について

- どんな情報でも、なるべく早くに欲しいです。
- 去年度の大会はものすごく楽しかったです。新入生も上級生も楽しめるようにしてほしいです。

東工大OLT おめでとう！！

ME 6位入賞

1走 山本 剛史 選手
 2走 曾原 直也 選手
 3走 大嶋 拓実 選手



現役選手の皆さん、入賞おめでとうございます。
 これからも更なる活躍を期待しております。
 東工大OLT OB・OG会 つばめ会

祝!

相模女子大学 選手権リレー6位入賞!! 芦澤咲子選手 女子選手権ミドル優勝!! 平井可奈子選手 WUB優勝! 千明瑞希選手 WUF優勝!



●結果を残せた人も残せなかった人も、インカレで得たものは大きかったと思います。『最後まで諦めない気持ち』で次のインカレでも、次のステージでも、KOLCの皆さんの活躍をきたいしています。(21期 砂川陽子) ●感動をありがとう。これからもKOLCの歴史を繋げていってください。(27期 鈴木慎一郎) ●KOLCからインカレチャンプが誕生した瞬間や、新たなチームが歴史を刻み始めた場に立ち会えたことを、嬉しく思います。今後は、伝統の力と新しい力で、より素晴らしいKOLCを作り上げてくれると信じてます。(29期 大森健史) ●熱い走りをありがとう。(29期 清宮庸一郎) ●芦澤選手、選手権ミドル優勝おめでとう! 白松、小室、池澤、4年間本当にお疲れさまでした。現役のみなさん、KOLCのますますの盛り上がり、活躍を遠く九州より期待しています。(31期 森下隼人) ●お疲れ様! &おめでとう! 来年は男子も女子も更なる飛躍を期待しています。(32期 川上崇史) ●結果を残した女子のみなさん、おめでとうございます! 次は男子のみなさんのターンですよ!(35期 登坂祥大) ●素晴らしい成績を残したみなさん、おめでとうございます! 今後の活躍も祈っています。(36期 大橋洋介) ●君たちは、つよい!(37期 熊澤貴弘) ●芦澤さんミドル優勝、相模女子大リレー6位入賞おめでとうございます。KOLCの皆さんの活躍をいつも楽しみにしています。今後も応援しています。(37期 高野絵理子) ●小室へ インカレエリートと大学卒業おめでとう! ムードメーカー(イジられ役?)としての働きもお疲れ様。これからは丘の上として、自分の経験を基に後輩たちが力を上手く出せるような運営をしてっとな~! 現役のみんなは精神的にも財布的にもツライと思うけど新歓頑張っ! 仲間とワイワイしながら、切磋琢磨できるKOLC作っ! (38期 大野航) ●昨年の経験を礎にさらに飛躍してください!(38期 杵村悠司) ●そのうち会社の帰り道にでも、部室遊びに行きますd(・v・)b(38期 田原壮一郎) ●芦澤おめでとう! 池澤おめでとう! 岩崎おめでとう! 千明おめでとう! 平井おめでとう! 黒田ペナ自重! 今度は男子も狙っ! (39期 東條真也) ●皆さん、おめでとうございます! 今年も期待しています!(39期 横井智哉) ●過去を超えられるよう、目標を持ち、高みを目指して頑張れ。そして仲間とともに楽しんでいけよ!(40期 小室隆之)

全コントロール図、ディスクリプション一覧

青年の城 2012

滋賀県蒲生郡竜王町・湖南市

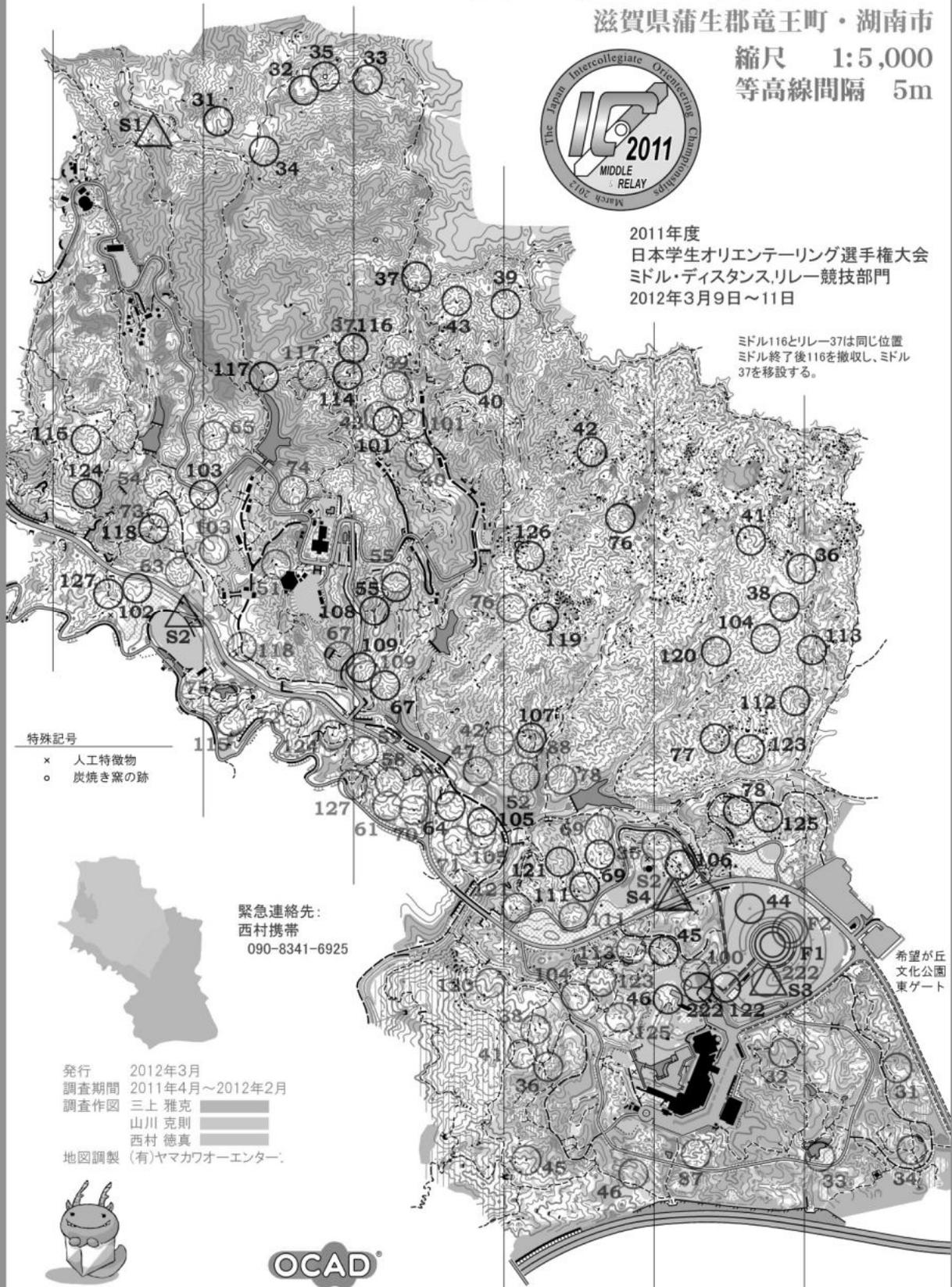
縮尺 1:5,000

等高線間隔 5m



2011年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
2012年3月9日～11日

ミドル116とリレー37は同じ位置
ミドル終了後116を撤収し、ミドル
37を移設する。



特殊記号
x 人工特徴物
o 炭焼き窯の跡

緊急連絡先:
西村携帯
090-8341-6925

発行 2012年3月
調査期間 2011年4月～2012年2月
調査作図 三上 雅克
山川 克則
西村 徳真
地図調製 (有)ヤマカワオーエンター



インカレマスコット「れいでい・しが」



OCAD License No. 1995

日本学生オリエンテーリング連盟・滋賀県オリエンテーリング協会

[Middle Distance]

IC middle 2011			
▷ S1	↘	↗	↖
▷ S2	↘	↗	↖
▷ S3	↘	↗	↖
▷ S4	↘	↗	↖
31	↘	↗	↖
32	↘	↗	↖
33	↘	↗	↖
34	↘	↗	↖
35	↘	↗	↖
36	↘	↗	↖
37	↘	↗	↖
38	↘	↗	↖
39	↘	↗	↖
40	↘	↗	↖
41	↘	↗	↖
42	↘	↗	↖
43	↘	↗	↖
44	↘	↗	↖
45	↘	↗	↖
46	↘	↗	↖
47	↘	↗	↖
48	↘	↗	↖
49	↘	↗	↖
50	↘	↗	↖
51	↘	↗	↖
52	↘	↗	↖
53	↘	↗	↖
54	↘	↗	↖
55	↘	↗	↖
56	↘	↗	↖
57	↘	↗	↖
58	↘	↗	↖
59	↘	↗	↖
60	↘	↗	↖
61	↘	↗	↖
62	↘	↗	↖
63	↘	↗	↖
64	↘	↗	↖
65	↘	↗	↖
66	↘	↗	↖
67	↘	↗	↖
68	↘	↗	↖
69	↘	↗	↖
70	↘	↗	↖
71	↘	↗	↖
72	↘	↗	↖
73	↘	↗	↖
74	↘	↗	↖
75	↘	↗	↖
76	↘	↗	↖
77	↘	↗	↖
78	↘	↗	↖
79	↘	↗	↖
80	↘	↗	↖
101	↘	↗	↖
102	↘	↗	↖
103	↘	↗	↖
104	↘	↗	↖
105	↘	↗	↖
106	↘	↗	↖
107	↘	↗	↖
108	↘	↗	↖
109	↘	↗	↖
110	↘	↗	↖
111	↘	↗	↖
112	↘	↗	↖
113	↘	↗	↖
114	↘	↗	↖
115	↘	↗	↖
116	↘	↗	↖
117	↘	↗	↖
118	↘	↗	↖
119	↘	↗	↖
120	↘	↗	↖
121	↘	↗	↖
122	↘	↗	↖
123	↘	↗	↖
124	↘	↗	↖
125	↘	↗	↖
126	↘	↗	↖
127	↘	↗	↖
222	↘	↗	↖

	Length	Climb	S	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	F
MEA	2.8	195	S1	31	35	33	43	39	42	76	38	36	41	77	78	44	45	46	222	F1
MEB	2.6	190	S1	31	35	33	43	39	42	76	38	36	41	77	78	122				F1
WEA	2.7	160	S1	34	32	33	37	43	40	55	67	64	69	44	45	46	222			F1
WEB	2.4	155	S1	34	32	33	37	43	40	55	67	64	69	122						F1
MUA1	2.3	200	S2	118	124	115	114	101	126	119	123	125	122							F1
MUA2	2.3	200	S2	102	124	115	114	101	126	119	120	125	122							F1
WUA	2.1	170	S2	127	103	114	101	126	119	107	121	106	122							F1
MUB	2.3	125	S2	102	124	115	114	108	109	105	121	106	122							F1
WUB	2.1	120	S2	118	103	117	114	108	109	105	111	106	122							F1
MUF1	2.3	130	S2	102	124	115	114	101	108	109	105	121	106	122						F1
MUF2	2.4	130	S2	127	124	115	114	101	108	109	105	111	106	122						F1
WUF	2.1	120	S2	118	103	117	114	101	108	109	105	111	106	122						F1
OAL1	2.7	240	S2	118	124	115	116	101	126	119	112	113	104	123	125	122				F1
OAL2	2.8	240	S2	127	124	115	116	101	126	119	112	113	120	122						F1
OAM	2.3	185	S2	102	124	115	116	101	126	119	107	111	106	122						F1
OAS	1.7	95	S2	118	103	108	109	105	111	106	122									F1
OB	2.2	110	S2	102	103	117	116	108	109	105	111	106	122							F1

[Relay]

IC relay 2011			
▷ S2	↘	↗	↖
31	↘	↗	↖
32	↘	↗	↖
33	↘	↗	↖
34	↘	↗	↖
35	↘	↗	↖
36	↘	↗	↖
37	↘	↗	↖
38	↘	↗	↖
39	↘	↗	↖
40	↘	↗	↖
41	↘	↗	↖
42	↘	↗	↖
43	↘	↗	↖
44	↘	↗	↖
45	↘	↗	↖
46	↘	↗	↖
47	↘	↗	↖
48	↘	↗	↖
49	↘	↗	↖
50	↘	↗	↖
51	↘	↗	↖
52	↘	↗	↖
53	↘	↗	↖
54	↘	↗	↖
55	↘	↗	↖
56	↘	↗	↖
57	↘	↗	↖
58	↘	↗	↖
59	↘	↗	↖
60	↘	↗	↖
61	↘	↗	↖
62	↘	↗	↖
63	↘	↗	↖
64	↘	↗	↖
65	↘	↗	↖
66	↘	↗	↖
67	↘	↗	↖
68	↘	↗	↖
69	↘	↗	↖
70	↘	↗	↖
71	↘	↗	↖
72	↘	↗	↖
73	↘	↗	↖
74	↘	↗	↖
75	↘	↗	↖
76	↘	↗	↖
77	↘	↗	↖
78	↘	↗	↖
79	↘	↗	↖
80	↘	↗	↖
108	↘	↗	↖
111	↘	↗	↖
113	↘	↗	↖
115	↘	↗	↖
117	↘	↗	↖
118	↘	↗	↖
120	↘	↗	↖
121	↘	↗	↖
123	↘	↗	↖
124	↘	↗	↖
125	↘	↗	↖
127	↘	↗	↖
222	↘	↗	↖

	Length	Climb	S	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	F
MER-AQY	4.9	310	S2	71	58	39	37	65	63	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2
MER-AQZ	4.9	310	S2	71	58	39	37	65	73	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2
MER-ARY	4.9	310	S2	71	58	39	37	65	63	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2
MER-ARZ	4.9	310	S2	71	58	39	37	65	73	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2
MER-ASY	4.0	265	S2	71	58	39	37	65	63	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2
MER-ASZ	4.0	265	S2	71	58	39	37	65	73	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2
MER-BQX	4.9	310	S2	70	59	39	37	65	54	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2
MER-BQZ	4.9	310	S2	70	59	39	37	65	73	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2
MER-BRX	4.9	310	S2	70	59	39	37	65	54	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2
MER-BRZ	4.9	310	S2	70	59	39	37	65	73	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2
MER-BSX	4.1	265	S2	70	59	39	37	65	54	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2
MER-BSZ	4.0	265	S2	70	59	39	37	65	73	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2
MER-CQX	5.0	315	S2	61	39	37	65	54	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2	
MER-CQY	4.9	315	S2	61	39	37	65	63	75	72	67	76	88	35	32	33	46	45	41	100	222	F2	
MER-CRX	5.0	315	S2	61	39	37	65	54	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2	
MER-CRY	4.9	315	S2	61	39	37	65	63	75	72	67	76	42	35	32	33	87	45	38	100	222	F2	
MER-CSX	4.1	270	S2	61	39	37	65	54	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2	
MER-CSY	4.0	270	S2	61	39	37	65	63	75	72	64	52	78	35	32	34	31	222				F2	
WER-AQY	4.2	220	S2	71	58	67	40	43	74	75	72	64	47	78	35	32	33	46	36	100	222	F2	
WER-AQZ	4.2	220	S2	71	58	67	40	43	74	75	72	64	52	69	35	32	33	46	36	100	222	F2	
WER-ARY	4.2	220	S2	71	58	67	40	43	74	75	72	64	47	78	35	32	33	87	36	100	222	F2	
WER-ARZ	4.2	220	S2	71	58	67	40	43	74	75	72	64	52	69	35	32	33	87	36	100	222	F2	
WER-ASY	3.4	205	S2	71	58	67	55	51	75	72	64	47	78	35	32	34	31	222				F2	
WER-ASZ	3.3	205	S2	71	58	67	55	51	75	72	64	52	69	35	32	34	31	222				F2	
WER-BQX	4.2	220	S2	70	59	67	40	43	74	75	72	64	52	78	35	32	33	46	36	100	222	F2	
WER-BQZ	4.2	220	S2	70	59	67	40	43	74	75	72	64	52	69	35	32							

選手権 A クラス スタートリスト

MEA					
11:40:00	北 翔太	金沢大学 3	12:34:00	近藤 康満	名古屋大学 2
11:42:00	千代澤 健右	早稲田大学 3	12:36:00	三谷 洋介	東京大学 3
11:44:00	中島 正治	横浜市立大学 3	12:38:00	菅谷 裕志	名古屋大学 4
11:46:00	菅野 敬雅	東北大学 2	12:40:00	伴 毅	京都大学 4
11:48:00	池田 純也	一橋大学 3	12:42:00	大嶋 拓実	東京工業大学 4
11:50:00	高橋 恒二	東北大学 3	12:44:00	結城 克哉	東京大学 3
11:52:00	石黒 裕将	岩手大学 4	12:46:00	真保 陽一	東京大学 2
11:54:00	中村 憲	東北大学 3	12:48:00	福井 直樹	大阪大学 2
11:56:00	細川知希	名古屋大学 2	12:50:00	横田 壘	岩手大学 4
11:58:00	杉村 俊輔	東北大学 1	12:52:00	瀧本 拓央	名古屋大学 4
12:00:00	佐藤 広志	岩手大学 4	12:54:00	野本圭介	筑波大学 1
12:02:00	尾崎弘和	早稲田大学 1	12:56:00	齋藤 遼一	東北大学 3
12:04:00	新見 健輔	東北大学 4	12:58:00	三善研吾	名古屋大学 3
12:06:00	辻 晃	金沢大学 4	13:00:00	堀田 遼	東京大学 3
12:08:00	黒田 勇人	慶應義塾大学 3	13:02:00	見目 裕之	東北大学 2
12:10:00	平野 弘幸	東北大学 2	13:04:00	佐藤 大典	東北大学 2
12:12:00	古里 亮太	東京大学 3	13:06:00	小山博之	新潟大学 4
12:14:00	高田 翔午	金沢大学 3	13:08:00	田邊 拓也	東北大学 4
12:16:00	羽野 嵩志	一橋大学 4	13:10:00	新見 哲也	早稲田大学 4
12:18:00	楠 恵輔	東京工業大学 4	13:12:00	石輪 健樹	東京大学 4
12:20:00	石野 夏幹	東京大学 2	13:14:00	燧 暁彦	東京大学 3
12:22:00	福田 雄希	京都大学 4	13:16:00	立川悠平	新潟大学 4
12:24:00	太田 瑛佑	早稲田大学 4	13:18:00	丸山 拓	早稲田大学 3
12:26:00	山内 司	岩手大学 2	13:20:00	細淵晃平	一橋大学 2
12:28:00	堀江 悟	名古屋大学 2	13:22:00	中野 雅之	東京大学 4
12:30:00	中井 智規	東北大学 4	13:24:00	関 淳	東北大学 2
12:32:00	宮崎 大地	東京工業大学 4			

WEA					
11:41:00	小泉 佳織	津田塾大学 3	12:03:00	高橋 美誉	岩手大学 2
11:43:00	石川 実起	奈良女子大学 3	12:05:00	吉川真由	椙山女学園大学 3
11:45:00	柳川 梓	筑波大学 2	12:07:00	關 明日香	岩手大学 2
11:47:00	菊池 ひかる	宮城学院女子大学 4	12:09:00	畠山 真紀	岩手大学 3
11:49:00	大河内 恵美	横浜市立大学 2	12:11:00	福井 莉子	新潟大学 2
11:51:00	池澤 芽衣	相模女子大学 4	12:13:00	中村由紀子	椙山女学園大学 2
11:53:00	田中千晶	お茶の水女子大学 2	12:15:00	小玉 千晴	椙山女学園大学 4
11:55:00	井上 舞	東京工業大学 4	12:17:00	稲毛日菜子	お茶の水女子大学 1
11:57:00	星野 智子	津田塾大学 4	12:19:00	佐野 まどか	東北大学 4
11:59:00	増田 実穂	実践女子大学 2	12:21:00	芦澤 咲子	相模女子大学 3
12:01:00	帖地 藍	金沢大学 2			

大会役員一覧

責任者・担当者

役職	氏名	役職	氏名
実行委員長	西村 徳真	運営責任者	入谷 健元
競技責任者	海老 成直	副競技責任者	崎田 孝文
イベントアドバイザー	金谷 敏行	ミドルプランナー	寺村 大
リレープランナー	仲村 健一	人事責任者	入谷 健元
会計責任者	岩瀬 祐介	広報責任者	尾崎 亮輔
副広報責任者	福西 佑紀	併設大会実行委員長	稲田 元樹
渉外担当	梅本 匠	広告担当	立田 美雪
資材担当	景山 健	Web 担当	尾崎 亮輔
前日責任者(開会式担当)	稲田 元樹	エントリー担当	宇都宮 圭
モデルイベント担当	谷川 友太	宿泊輸送担当	市川 雄一郎
運営者グッズ担当	山田 めぐみ		

当日役員配置 (◎:パートチーフ)

- 本部 西村徳真[京都 04] 金谷敏行[東北 96] 入谷健元[京都 04]
海老成直[中央 04] 稲田元樹[立命館 04]
- 受付 ◎石藏友紀子[津田塾 04] 山田めぐみ[京都女子 04]
- 会場 ◎疋田はるか[椙山女学園 05] 崎田孝文[名古屋 05] 高崎裕子[京都女子 06]
- 演出 ◎千々岩瞳[東北 05] 福西佑紀[東京 07] 矢野恵生[大阪 98]
浦川貴広[京都 07] 谷真理子[京都女子 06] 山口尚宏[筑波 95]
入江早紀[京都女子 03] 木村佳司[山口 80] 鈴木稔弥[名古屋 06]
尾崎亮輔[京都 05] 市脇翔平[京都 07] 湯上久美子[京都女子 04]
- スタート ◎寺村大[名古屋 05] 仲村健一[京都 02] 古澤誠実朗[千葉 06]
坂本涼子[京都橘 03] 小澤隆嘉[名古屋 06] 林真一[名古屋 06]
岩城徹[東北 03] 谷川友太[名古屋 06] 仲田貴幸[関西 04]
谷久美子[京都女子 05] 吉永朋加[京都 06] 高田智実[京都 02]
立田美雪[椙山女学園 07] 梅本匠[京都橘 05]
- フィニッシュ ◎西尾和也[京都 04] 石角直大[京都 02] 小林篤司[京都 07]
立川洋[筑波 98] 三上雅克[神戸 90] 安井美優希[京都 06]
景山健[早稲田 04] 北里隆典[名古屋 06] 中清行[神戸 04]
山川克則[東京 77]
- 救護 ◎八神遙介[東北 02] 村上冴子[椙山女学園 04] 安田太郎[埼玉 01]
- NG クラス ◎佐久間風花[椙山女学園 07] 分木麻希子[立命館 04]
- 輸送 ◎宇都宮圭[京都 07]

地図調査

三上雅克 山川克則 西村徳真

イベントアドバイザー

金谷敏行

裁定委員

奥村理也(東京大卒) 玉祖秀人(京都大卒) 花木睦子(千葉大卒)



2011年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門 報告書

発行日：2012年6月3日

発行元：日本学生オリエンテーリング連盟

所在地：〒112-0014 東京都文京区関口3-18-12 目白台芙蓉ハイツ104

Tel&FAX：050-2012-4825

ホームページ：<http://www.orienteering.com/~uofj>

発行責任者：西村 徳真(実行委員長)

編集責任者：尾崎 亮輔(広報責任者)

印刷・製本：西岡総合印刷株式会社(オンデマンドP)